

Benesse Art Site Naoshima
Press Kit

General

全体概要

2024 10.1

Benesse
Art Site
Naoshima

ベネッセアートサイト直島とは

「ベネッセアートサイト直島」は、直島・豊島(香川県)、犬島(岡山県)を舞台に(株)ベネッセホールディングスと(公財)福武財団が展開しているアート活動の総称です。

瀬戸内海の風景の中、ひとつの場所に、時間をかけてアートをつくりあげていくことと各島の自然や、地域固有の文化の中に、現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことが「ベネッセアートサイト直島」の基本方針です。

各島でのアート作品との出会い、日本の原風景ともいえる瀬戸内の風景や地域の人々と触れ合いを通して、訪れてくださる方がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセーよく生きる」とは何かについて考えてくださることを目指しています。

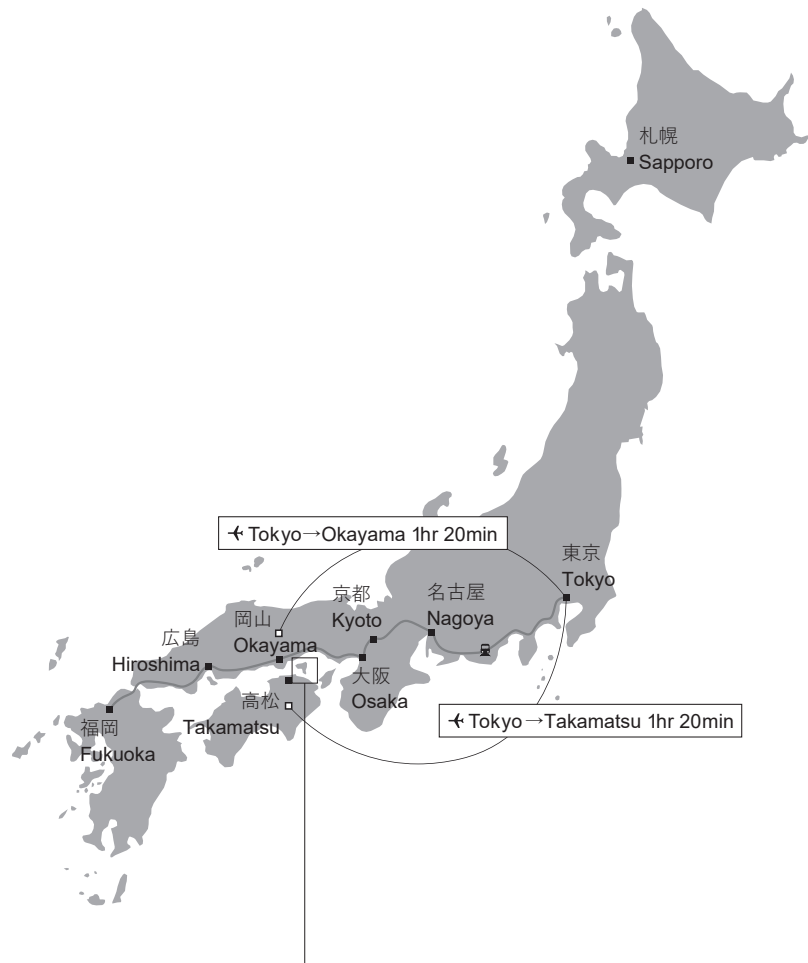
そして、活動を継続することによって地域の環境・文化・経済すべての面において社会貢献できるよう、現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築いていきたいと考えています。

株式会社ベネッセホールディングス

ベネッセグループは、国内教育、海外教育、生活、シニア・介護、語学・グローバル人材教育の各分野において、「Benesse=よく生きる」を目指して、志をもって夢や理想の実現に向けて一歩一歩近づいていこうとする人々の向上意欲と課題解決を生涯に渡って支援しています。1955年創立。

公益財団法人 福武財団

2004年に直島の地中美術館の開館を機に設立。直島、豊島、犬島を舞台に、ベネッセホールディングスとともに自然、アート、建築による地域振興を目指し、美術館事業、助成事業、瀬戸内国際芸術祭や大地の芸術祭を中心とした支援など、さまざまな事業活動を行っています。



瀬戸内海と私

— なぜ、私は直島に現代アートを持ち込んだのか

公益財団法人 福武財団名誉理事長 株式会社ベネッセホールディングス名誉顧問 瀬戸内国際芸術祭総合プロデューサー

福武總一郎

東京から瀬戸内へ

かつて私は、若いころは主に東京で生活をしていましたが、40歳になったときに父が急逝したため、本社のある岡山へ帰る事になり、父が進めていた直島で子どもたちのキャンプ場作りのために何度も直島を訪れるようになりました。そのプロジェクトに関わりながら、島の人々との交流を深め、また趣味のクルーズで瀬戸内の島々を回っていくうちに、瀬戸内海の美しさ素晴らしさと同時に、歴史や文化、島々に暮らす人々のあり方を再認識するようになりました。

瀬戸内の島々の多くは、今日では離島とか過疎の島といわれていますが、近代化の波に洗われていない、かつて日本人が本来持っていた心のあり方や暮らし方、地域の原風景が残っていました。それらは民家のたたずまいであり、人々の慣習であり、近所付き合いであり、自然の恵みを直接いただくという、ある面では自給自足的な生活でもありました。

また、瀬戸内海の島々は、日本で最初の国立公園に認定されながら、日本の近代化や戦後の高度成長を支え、かつその負の遺産を背負われた場所でもあります。直島や犬島には亜硫酸ガスを出す製錬所が建てられ、豊島は産業廃棄物の不法投棄が行われ、島々の自然と島民は痛めつけられました。また、大島はハンセン病の人々を収容する療養施設として、長い間、社会とは隔離され続けたのです。

在るものを活かし、無いものを創る

このように、私は瀬戸内の島々と深くかわりながら、東京での生活や社会のあり方を比較すると、これまでの自分

の考え方が180度、転換して行くのを感じるようになりました。つまり、「近代化」とは「都市化」と同義語であり、東京に代表される大都会は、人間が自然との営みから離れ、人間の欲望だけが固まった、化け物のような場所ではないか、ということです。そこでは、絶え間ない、刺激と興奮、緊張と享楽に溢れており、かつ人々をそれらの競争の渦のなかに巻き込んでいく社会であります。今、都会においては、無差別殺人や子どもの育児放棄を見るまでも無く、隣人には全く無関心であり、心豊かな居場所であるとはとてもいえません。子どもたちは、豊かな自然と触れ合う遊び場もなく、小さい時から経済中心の競争世界のなかに放り込まれ、洗脳されています。

そうした状況を、人々は決してよい社会であるとは思っていませんが、その蟻地獄のような大都会から脱出する事は大変な勇気を必要とします。また、今日においても、多くの地方の若者たちは、こうした都市の魔力に吸い寄せられています。そしてここ瀬戸内海においても、若者は都会を目指し、多くの島には高齢者だけが残り過疎化がさらに進む事態が続いています。私は、この様な大都会の現状と、瀬戸内の人々の暮らし方を見ているうちに、近代化のペースとなっている考え方である、「破壊と創造」の文明、つまり「在るものを壊し、新しいものを作り続け、肥大化していく文明」のあり方に深い疑念を覚えたのです。そうした、「破壊と創造を繰り返す文明」から、「在るものを活かし、無いものを創っていく」という、「持続し成長していく文明」に転換して行かなければいけない。そうでなければ、文化の継承と発展は出来ないし、我々の作ったものも、いずれ後世に抹殺されてしまうだろうと考えました。

人はいい地域に住むことで 幸せになれる

このような現代社会における、大都市の抱える問題と、瀬戸内のような地域の現状との矛盾を考えるなかで、瀬戸内の島々の様な、近代化に汚染されていない日本の原風景が残る場所に、現代社会を批判するメッセージ性を持った、魅力的な現代美術を置いたら、地域が変わっていくのではないかという思いを強く抱くようになり、それを実践してきました。そうしたところ、現代美術を見るために、直島に多くの若い人たちが訪ねて来るようになり、都会では得られない地域の良さを発見したりします。また、彼らとの交流により土地の人々も、特に地域のお年寄りが、どんどん元気になっていく様子を見て、私自身も驚き、うれしくなるとともに、なぜ都会に住む人々は、心から幸せでないのだろうかということも、考えるようになりました。

都会では、人々が「自己実現」と称して、他人よりも多くの幸せを得ようと努力していますが、それでは本当の幸せをつかむことができません。なぜなら、「人間は、幸せなコミュニティのなかに居なければ、ほんとうに幸せにはなれない存在である」からです。自己の幸福だけを追求し、そのことを競争する都会の人々は、一方では絶えず欲求不満と不安を覚えることになります。

有名なアメリカの心理学者であるマズローの説によると、人間の欲求には5段階があり、その最上位にあるのが自己実現の欲求だといえます。アメリカの近代化は、おそらく自己実現の追求に駆り立てられるようにして、個人の幸福を最大化する社会づくりをめざして進みまし

た。しかし、そのような追求は、「キャッシュ・イズ・キング（現金は王なり）」という考え方や「自由競争」の原理が支配する金融資本主義を採用することにより、結果として格差の蔓延する社会を生み出しました。しかし今では、マズローがほんとうに言いたかったのは人間の欲求には5段階ではなく、実は「自己超越」を最上位とする6段階があるということだと考える人々もいます。自己超越的な個人というのは、純粋に個人的な自己のあり方を超え、しばしば他者への奉仕に携わる人のことです。幸せなコミュニティとはどこにあるのでしょうか。現在も、世界の多くの人々は、そうしたユートピアは現世にあるのではなく、天国や極楽にあり、死んでから行けるものだと思っているようです。果たしてそうでしょうか？ 来世の天国が良かったと帰って来た人は一人もいないのです。

お年寄りの笑顔があふれる直島

私は、直島のお年寄りたちが、現代美術に馴染み、島を訪れる若い人々と笑顔で接してドンドン元気になっているのを見て、幸せなコミュニティとは「人生の達人であるお年寄りの笑顔が溢れているところ」と定義することができました。どんな人生であったとしても、お年寄りは人生の達人であり、彼らは「年をとればとるほど幸せである」べきです。人生の達人が、足腰が弱くなっても、多少記憶力が落ちてても、笑顔が溢れているということは、不安で将来の見えない現在の若い人にとって、笑顔のある将来の自分たちの居場所がある、ということになります。人間には、お母さんが笑えば赤ちゃんも笑うという「母子相互作用」といわれる本来的な現象がありますが、同じように、お年寄りの笑顔は若者を笑顔にします。

そうした理由で、今や直島は世界で一番幸せなコミュニティであり、海外からも多くの人々が訪れるようになりました。島を訪れた方々は、ぜひ島の人たちに逢って貰いたい。そして、私は、直島における、この世の極楽のコミュニティの経験を、さらに直島以外の瀬戸内の島々にも広げ、それも直島と同じもの

ではなく、それぞれの島の文化や個性を生かした形で、島の人々やボランティアの皆さんと一緒に作ろうと思いました。そして、その事が出来るメディアは、良質の現代美術を除いてまだ私は知りません。現代美術は、人々を覚醒させ、地域も変える偉大な力を持っていると信じています。私もお手伝いさせていただいている「越後妻有トリエンナーレ」（大地の芸術祭）の総合ディレクターである北川フラムさんの協力も得て、この「瀬戸内国際芸術祭」のプロジェクトが始まりました。

瀬戸内海から新しい文明観を発信

「近代化とは都市化」の時代であると述べ、今の大都市のあり方を大いに批判しましたが、私は近代化や都市化を全く否定するつもりはありません。「都市」というのは人間にとっては、人々の気分を自由にし、魅力ある空間であることも事実です。日本にも、東京のマネではなく、もっとそれぞれの地域の歴史と文化を生かした都市が生まれることを期待しています。

現代社会に対するメッセージを持った現代美術を媒介にして、そうした都市と、自然溢れ個性ある島々を繋ぐ事によって、都会と田舎、そしてお年寄りと若者、男と女、そこに「住む人々」と「訪れる人々」とが互いに交流し、お互いのよさを発見し、認め合うことができます。そのことが都市に住む人々にとってもいい影響をあたえ、過疎といわれる地域も蘇り、それぞれの地域の持つ多様な文化を活かしていく「バランスのとれた価値観の社会」が出来事を期待しています。そして「在るものを活かし、無いものを創っていく」という21世紀の新しい文明観を、ここ瀬戸内海から、世界に発信していきたいと思えます。

公益資本主義を目指す

私は慈善活動家でも評論家でもありません。地方の一事業家です。そして富の創造は、殆どが企業活動によってなされる事を知っています。わが社（ベネッセホールディングス）が目指しているこ

とは、現在、世界経済を崩壊に陥れている「金融資本主義」とは対極にあります。それはお金だけが経済活動の目的ではないということであり、そのことを私はよく「経済は文化の僕である」と言っています。人々を心豊かにするのは経済活動だけでは出来ません。経済の繁栄だけを目的化すると、かえって人々は不幸になると思えます。文化、すなわち「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり（お年寄りの笑顔があふれる社会づくり）」のために経済はあるのだと私は思っています。現在私は、その具体的な実現のために「公益資本主義」という新しい経営の概念を提唱しています。それは、企業が、文化や地域振興を明確な目的とする財団を創設し、その財団がその株式会社の大株主になり、そこで得られた配当を資金として、社会に貢献できる仕組みをつくることです。この「公益資本主義」の考えと実践、成果を、世界へ伝えていきたいと思っています。アートによる地域の再生とこの世のユートピア創造、そしてそれを可能にする新しい公益資本主義の考え方。こうした文化と企業の新しいあり方、考えを世界へ広げていくのが「瀬戸内国際芸術祭」の持つひとつの意味だと私は思っています。

（平成22年8月6日、「瀬戸内国際シンポジウム2010」より）。

福武 総一郎 経歴

岡山県出身。早稲田大学理工学部卒業。1973年福武書店（現ベネッセホールディングス）入社。1986年代表取締役社長。2007年代表取締役会長兼CEO。2016年同社名誉顧問に就任。直島・豊島・犬島など瀬戸内海の島々をアート、建築、自然で活性化する活動（ベネッセアートサイト直島）を25年以上にわたって指揮。2004年（財）直島福武美術館財団（現（公財）福武財団）を設立し、直島に地中美術館を開館。同年、直島町名誉町民受賞。その他、芸術選奨（2008年）、日本建築学会文化賞（2010年）、日本建築大賞（2011年）、モンブラン国際文化賞（2012年）など受賞。

ベネッセアートサイト直島の変遷

1987

直島国際キャンプ場

1985年、瀬戸内海の島に世界中の子どもたちが集える場を作りたいと(株)福武書店(当時)の社長福武哲彦が、直島の南側を教育的な文化エリアとして開発したいと思い描いていた当時の直島町長三宅親連と会談し、直島開発の約束を交わした。

1987年第一回チャレンジザサマー開催。

1989年よりキャンプ場を一般OPEN。

1992

ベネッセハウス OPEN(7月)

美術館とホテルの機能を兼ね備えた「ベネッセハウス」オープン。同時に、「直島コンテンポラリーアートミュージアム」という名称でアート活動を始める。1994年の「OUT OF BOUNDS」展では、美術館の建物から出て作品を展示、その後のサイトスペシフィック・ワークへの重要なステップとなる。

1995

ベネッセハウス オーバル OPEN(7月)

安藤忠雄設計による宿泊専用棟、ベネッセハウス オーバルが完成。

1996

サイトスペシフィック・ワーク

アーティストを招いて「直島にしかない作品」を制作してもらい、完成した作品はベネッセハウス内外に永久展示するコミッションワーク形式によるサイトスペシフィック・ワークの制作へと方針を転換。

1998

家プロジェクト開始(3月)

直島の本村地区において、サイトスペシフィック・ワークの発展形の試みとしてスタートした「家プロジェクト」の第1弾「角屋」を公開。

2001

「スタンダード」展(10周年企画)

直島コンテンポラリーアートミュージアム10周年企画として、島全体のさまざまな家や施設、路地を舞台とした展覧会「スタンダード」展を開催。

2004

地中美術館 開館(7月)
「ベネッセアートサイト直島」スタート

直島におけるベネッセの活動の総称として「ベネッセアートサイト直島」の名称を導入。7月に地中美術館を開館し、自然、アート、建築の融合による新たな美術館像を提示。直島の中核施設となる。

2006

ベネッセハウス パーク、ビーチ OPEN
(5月)、「直島スタンダード2」展

2001年に開催された「スタンダード」展以来5年ぶりの企画展を開催。(10月～2007年4月)

2007

家プロジェクト7軒公開開始(9月)

2008

犬島精錬所美術館 開館(4月)

直島でのアート活動を礎に、犬島(岡山県)にて近代化産業遺産である犬島製錬所の遺構を保存・再生した美術館を開館。「遺産・建築・現代アート・環境」による新たな地域創造を提示。

2009

直島銭湯「I♥湯」営業開始(7月)

実際に入浴できる美術施設として「直島銭湯『I♥湯』(アイラヴユ)」の営業を開始。運営はNPO法人直島町観光協会が担うなど、地域との協働の新たな一歩を踏み出す。

2010

「瀬戸内国際芸術祭*2010」開催協力
李禹煥美術館 開館(6月)
犬島「家プロジェクト」開始(7月)
心臓音のアーカイブ 開館(7月)
豊島美術館 開館(10月)

第1回となる「瀬戸内国際芸術祭2010」開幕に合わせ、直島、豊島、犬島に新たに4つの美術施設・プロジェクトを開設。芸術祭には、国内外から延べ約93万人の人々が訪れた。

2011

ベネッセアートサイト直島20周年企画
「生成(SEISEI)」(11月～2012年7月)

ベネッセハウスが2012年7月にオープン20年を迎えることを記念し、ベネッセアートサイト直島の足跡を振り返る連続トークイベント「生成(SEISEI)」を開催。

2013

「瀬戸内国際芸術祭*2013」開催協力
ANDO MUSEUM 開館(3月)
犬島「家プロジェクト」A邸・C邸・石職人の家跡開設(3月)
豊島横尾館 開館(7月)
宮浦ギャラリー六区 開館(7月)

第2回となる「瀬戸内国際芸術祭2013」の開催に合わせ、直島、豊島、犬島で新たな4つのプロジェクトを展開。犬島の犬島「家プロジェクト」では、2つのギャラリーを新設し、5人の作家作品を展示。

2014

犬島「家プロジェクト」I邸 新作公開(3月)

犬島「家プロジェクト」I邸において作家・小牟田悠介氏による新作を公開。

2015

犬島「家プロジェクト」C邸 新作公開(3月)

下平千夏氏による新作を公開。

2016

「瀬戸内国際芸術祭*2016」開催協力
豊島八百ワラボ開館(3月/現在休館中)
針工場 公開(3月)
ささやきの森 公開(7月)
犬島「家プロジェクト」I邸 新作公開(9月)
豊島シーウォールハウス開館(10月)
犬島 ぐらしの植物園 開園(10月)

2018

犬島「家プロジェクト」第4期展示「A邸」新作公開(11月)

2019

「瀬戸内国際芸術祭*2019」開催協力
The Naoshima Plan「水」 公開(4月)
犬島「家プロジェクト」第4期展示「C邸」

新作公開(7月)
アートプロジェクト《瀬戸内「
料館》スタート(9月)

2022

「瀬戸内国際芸術祭*2022」開催協力
「ヴァレーギャラリー」
「杉本博司ギャラリー 時の回廊」開館
(3月)
INUJIMA アートランデブー開始(4月)

*瀬戸内国際芸術祭

直島、豊島、犬島をはじめとする瀬戸
内の島々で展開するアートの祭典(主
催:香川県瀬戸内国際芸術祭実行委員
会)。ベネッセアートサイト直島(ベネッ
セホールディングス、福武財団)は構
成団体の一つとして協力しています。

各施設所在地

直島 Naoshima

ベネッセハウス

杉本博司ギャラリー 時の回廊

ヴァレーギャラリー

〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地

Tel: 087-892-3223

家プロジェクト

〒761-3110 香川県香川郡直島町本村地区

Tel: 087-892-3223 (ベネッセハウス)

地中美術館

〒761-3110 香川県香川郡直島町3449-1

Tel: 087-892-3755

直島銭湯「I♥湯」

〒761-3110 香川県香川郡直島町2252-2

Tel: 087-892-2626 (直島町観光協会)

李禹煥美術館

〒761-3110 香川県香川郡直島町字倉浦1390

Tel: 087-892-3754 (福武財団)

ANDO MUSEUM

〒761-3110 香川県香川郡直島町736-2

Tel: 087-892-3754 (福武財団)

瀬戸内「」資料館／

宮浦ギャラリー六区

〒761-3110 香川県香川郡直島町2310-77

Tel: 087-892-3755 (地中美術館)

The Naoshima Plan「水」

〒761-3110 香川県香川郡直島町本村707

Tel: 087-892-3754 (福武財団)

豊島 Teshima

豊島美術館

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃607

Tel: 0879-68-3555

心臓音のアーカイブ

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2801-1

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

豊島横尾館

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦2359

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

豊島八百万ラボ

〒761-4663 香川県小豆郡土庄町豊島甲生908

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

針工場

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦字中村1841-2

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

トムナフーリ

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦字虻37

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

ささやきの森

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃1771

Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

犬島 Inujima

犬島精錬所美術館

犬島「家プロジェクト」

犬島 ぐらしの植物園

INUJIMA アートランデブー

〒704-8153 岡山県岡山市東区犬島327-4

(犬島精錬所美術館)

Tel: 086-947-1112

アーティスト & 建築家プロフィール

安藤忠雄 (あんどう・ただお)

1941年大阪生まれ。建築家、東京大学名誉教授。1969年安藤忠雄建築研究所設立。プリツカー賞(1995)、UIA(国際建築家連合)ゴールドメダル(2005)、文化勲章(2010)、芸術文化勲章コマンドゥール(フランス、2013年)をはじめ国内外で受賞多数。

代表作:「住吉の長屋」(1976年、大阪)、「光の教会」(1989年、大阪)など。ベネッセアートサイト直島では、直島において「ベネッセハウスミュージアム」(1992)、「地中美術館」(2004)、「ANDO MUSEUM」(2013)など、8施設の建築設計を手掛ける。

ウォルター・デ・マリア

1935-2013年。カリフォルニア州オルバニー生まれ。代表作:「ライトニング・フィールド」(1977年、ニューメキシコ)、「ニューヨーク・アース・ルーム」(1977年、ニューヨーク)、「ブローケン・キロメーター」(1979年、ニューヨーク)など。ベネッセアートサイト直島では、直島において「見えて／見えず 知って／知れず」(2000)、「タイム／タイムレス／ノー・タイム」(2004、地中美術館)の作品を恒久設置。

大竹伸朗 (おおたけ・しんろう)

1955年、東京生まれ。1980年代初頭より国内外で作品発表を開始。近年は、第8回光州ビエンナーレ(2010年、韓国)、ドクメンタ(13)(2012年、ドイツ)、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ(2013年、イタリア)などの国際展に参加。ベネッセアートサイト直島での主な作品は、1994年に発表された「シップヤード・ワークス」ほか、家プロジェクト「はいしゃ」《舌上夢／ポッコン覗》(2006年、直島)、直島銭湯「I♥湯」(2009年、直島)。瀬戸内国際芸術祭2013に参加し、女木島にて「女根／めこん」瀬戸内国際芸術祭2016では、豊島にて「針工場」を発表。

大宮エリー (おおみや・えりー)

1975年、大阪府生まれ。東京大学薬学部卒業。作家業、舞台の作演出、ドラマ・映画監督、映像制作、ラジオのパーソナリティと様々なジャンルで活動。2012年より絵画制作を始め、2016年には個展「シンシアリー・ユアーズー親愛なるあなたの宮大宮エリーより」(十和田市現代美術館、青森)を開催。2019年にTICOLAT TAMURA(香港)、2022年にGalerie Boulakia(ロンドン)の個展でも評価を受ける。2020年より教育にも力を入れている。

小沢剛 (おざわ・つよし)

1965年東京都生まれ。ユーモアを交えながら歴史や社会を鋭く批評する絵画、写真、映像、インスタレーションといった多様な手法の作品で知られる。東京藝術大学在学中から、風景の中に自作の地蔵を建立し、写真に収める《地蔵建立》開始。90年代初頭より《相談芸術》や牛乳箱を用いた超小型移動式ギャラリー《なすび画廊》を開始。1999年には日本美術史の名作を醤油でリメイクした《醤油画資料館》、2001年より女性が野菜で出来た武器を持つポートレート写真のシリーズ《ベジタブル・ウェポン》、2013年より、歴史上の実在する人物を題材に、事実とフィクションを重ね合わせ、物語を構築する「帰って来た」シリーズを制作。2007年より中国、韓国の作家とともに結成した「西京人」の活動も展開。

草間彌生 (くさま・やよい)

1929年長野県生まれ。前衛芸術家、小説家。幼少期から幻視・幻聴を体験し、網目模様や水玉をモチーフにした絵画を制作し始める。1957年に渡米、ネット・ペインティング、ソフト・スカルプチュア、鏡や電飾を使ったインスタレーションやハプニングなど多様な展開を見せ、前衛芸術家としての地位を確立。様々なオブセッションを乗り越え、単一モチーフの強迫的な反復と増殖による自己消滅という芸術哲学を見出す。近年ではテート・モダンやポンピドゥー・センターなどで大規模回顧展を開催。

クリスチャン・ボルタンスキー

1944年パリ生まれ。映像、写真、絵画、彫刻、マルチメディア・インスタレーションなど、多彩な表現方法で「生と死」の問題を扱う。自身の過去の再現を試みるほか、ビスケット缶、キャンドル、また何千枚もの写真、古着、名前などを用いて、無名の個人を記憶に留め、人間存在の重要さと儚さ、消滅を表現する。各国の主要美術館で展示を行い、ドクメンタ(72、77)、ヴェネチア・ビエンナーレ(76、80、93、95、2011)、越後妻有トリエンナーレ(2000、03、06、09、12)など国際展にも多数参加。2010年、豊島に「心臓音のアーカイブ」2016年、「ささやきの森」発表。

クロード・モネ

1840年パリ生まれ。1883年に移り住んだジヴェルニーに“水の庭園”と呼んだ睡蓮の池とそれを囲む庭を自ら造園し、それらをモチーフに生涯描き続けた。1926年ジヴェルニーの自宅で86歳の生涯を終える。1927年5月17日、「睡蓮」を展示するオランジュリー美術館が公開される。代表作:「印象:日の出」、「積み藁」、「ルーアン大聖堂」。

三分一博志 (さんぷいち・ひろし)

1968年生まれ。建築家。東京理科大学理工学部建築学科卒業。小川晋一アトリエを経て、三分一博志建築設計事務所設立。カナダグリーンデザイン賞最優秀賞(Running Green Project、カナダ)、2003年新建築賞(エアールハウス)、2005年Detail Prize 2005 SPECIAL Prize(三輪窯、ドイツ)、2010年日本建築大賞(犬島精錬所美術館、岡山)受賞。2015年「直島ホール」設計。

ジェームズ・タレル

1943年アメリカ生まれ。1965年ボナカレッジで知覚心理学と数学の学士号を取得。1965〜66年カリフォルニア大学アーバイン校大学院にて美術史を学ぶ。1973年クレアモント大学院芸術修士号取得。1979年ローデン・クレータープロジェクト着工。代表作:「ローデン・クレーター」(1979年〜、アリゾナ)、「スカイスペース」(1986年、P.S.1、ニューヨーク)、「バックサイド・オブ・ザ・ムーン」(1999年、家プロジェクト「南寺」、直島)、「光の館」(2000年、新潟)。

下道基行(したみち・もとゆき)

1978年岡山生まれ。武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業。フィールドワークをベースに、生活の中に埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を、写真や映像、収集などの手法によって編集することで視覚化する。作家活動と並行して、「旅するリサーチラポラトリー(2015〜)」など様々な人々とのコラボレーションや学生とのラーニングなどのプロジェクト活動も多数行っている。2019年、《瀬戸内「
」資料館》を企画し「館長」に就任。

ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー

ジャネット・カーディフ

1957年カナダ、ブリュッセルズ生まれ

ジョージ・ビュレス・ミラー

1960年カナダ、ベークビル生まれ

1995年頃から共同制作を始め、現在ともにカナダ・ブリティッシュコロンビアとベルリンを拠点に活動。高度な音響技術を駆使したサウンド・インスタレーションで知られている。ベネッセアートサイト直島では、ベネッセハウスビーチ客室にて直島に2週間滞在し制作したコミッション・ワーク新作「Dreaming Naoshima」(宿泊者のみ鑑賞可能)を2016年3月末より公開。第49回ヴェネツィア・ビエンナーレのカナダ館代表、ヴェネツィア・ビエンナーレ特別賞、第4回ベネッセ賞受賞(2001年)。ドクメンタ13(2012)など国際展多数参加。

杉本博司(すぎもと・ひろし)

1948年東京生まれ。ロサンジェルスのアートセンター・カレッジ・オブ・デザインで写真を学ぶ。1974年よりニューヨーク在住。代表作に自然史博物館のジオラマを撮影した「ジオラマ」シリーズ(1976年〜)、世界各地の海を撮影した「海景」シリーズ(1980年〜)など。2002年、直島・家プロジェクト「護王神社」完成。建築に造詣が深く、現在、建築事務所「新素材研究所」代表。

須田悦弘(すだ・よしひろ)

1969年山梨生まれ。多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業。主な展覧会に、1993年「銀座雑草論」(銀座1〜4丁目パーキングエリア)、2004年「須田悦弘」(パレ・ド・トーキョー・バリ)、2006年「須田悦弘展」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館)。ベネッセアートサイト直島では、2001年「スタンダード」、2006年〜07年「直島スタンダード2」に参加。2002年ベネッセハウスミュージアムにて「雑草」、2006年には家プロジェクト「基会所」を制作。

妹島和世(せじま・かずよ)

1956年茨城生まれ。建築家。伊東豊雄建築設計事務所を経て1987年妹島和世建築設計事務所設立。1995年西沢立衛と共にSANAA設立。2010年プリツカー賞受賞*。代表作に「金沢21世紀美術館」(2004年、石川)*、「海の駅おしま」(2006年、直島)*、「ニューミュージアム」(2007年、ニューヨーク・アメリカ)*、「犬島『家プロジェクト』」(2010年、犬島)、「ROLEXラーニングセンター」(2010年、スイス)*、「ルーブル=ランス」(2012年、フランス)*など(*はSANAA)。2015年、犬島「家プロジェクト」が第28回村野藤吾賞を授賞。

千住博(せんじゅ・ひろし)

1958年東京生まれ。東京藝術大学大学院博士課程修了。現在、京都造形芸術大学学長、ニューヨーク在住。1995年第46回ヴェネツィア・ビエンナーレにおいて「ウォーター・フォール」(滝シリーズ)を発表(日本館)。2002年大徳寺聚光院別院襖絵(静岡)、2006年家プロジェクト「石橋」倉にて「ザ・フォールズ」を公開。約15年に及ぶ滝シリーズの制作を経て、2009年には家プロジェクト「石橋」母屋において崖シリーズの1作目となる「空の庭」を公開。

内藤礼(ないとう・れい)

1961年広島生まれ。1985年武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科卒業。ベネッセアートサイト直島におけるパーマメント作品:「このことを」(2001年、家プロジェクト「きんざ」、直島)、「母型」(2010年、豊島美術館、豊島)。主な展覧会:「地上にひとつの場所を」(1997年、第47回ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館、イタリア)、「すべて動物は、世界の内にちよど水の中に水があるように存在している」(2009年、神奈川県立近代美術館 鎌倉)。

永山祐子(ながやま・ゆうこ)

1975年東京生まれ。建築家。青木淳建築計画事務所勤務を経て、2002年永山祐子建築設計設立。主な仕事に「LOUIS VUITTON京都大丸店」(2004年、京都)、「丘のある家」(2006年、東京)、「カバヤ珈琲」(2009年、東京)、「木屋旅館」(2012年、愛媛)。ベネッセアートサイト直島では、豊島にて「豊島横尾館」(2013年、香川)の建築設計を手掛ける。2015年、豊島横尾館において「日本建築家協会優秀建築選」2014年度JIA新人賞受賞。

成瀬・猪熊建築設計事務所

(なるせ・いのくまけんちくせつけいじむしょ)

成瀬友梨:1979年愛知県生まれ。2010年より東京大学助教。

猪熊純:1977年神奈川県生まれ。2008年より首都大学東京助教。

2007年成瀬・猪熊建築設計事務所共同設立。地域・ライフスタイル・コミュニケーションという観点から建築を考え、シェアをキーワードに設計を行う。代表作に「FabCafe Tokyo」(東京、2012)、「LT城西」(愛知、2013)、「柏の葉オープンイノベーションラボ(KOIL)」(千葉、2014)など。

西沢大良(にしざわ・たいら)

1964年東京生まれ。建築家。1987年東京工業大学卒業。1987-93年入江一建築設計事務所を経て1993年西沢大良建築設計事務所設立。2005年AR-AWARDS最優秀賞、2006年JIA新人賞などを受賞。代表作に、「砥用町林業総合センター」(2004年、砥用)、「駿府教会」(2008年、静岡)、「沖縄 KOKUEIKAN」(2006年〜2010年、那覇)、「今治港再生都市計画」(2009年〜、今治)、「宮浦ギャラリー六区」(2013年、直島)など。

西沢立衛(にしざわ・りゅうえ)

1966年東京生まれ。建築家。1990年妹島和世建築設計事務所入所。1995年妹島和世とSANAAを設立後、1997年西沢立衛建築設計事務所を設立。2010年プリツカー賞を受賞*。代表作に「森山邸」(2005年、東京)、「十和田市現代美術館」(2008年、青森)、「豊島美術館」(2010年、香川)、「ROLEXラーニングセンター」(2010年、スイス)*、「ルーブル=ランス」(2012年、フランス)*など(*はSANAA)。2011年、豊島美術館が第25回村野藤吾賞を授賞。

長谷川祐子 (はせがわ・ゆうこ)

兵庫県生まれ。京都大学法学部卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。金沢21世紀美術館学芸課長(1999-2005)、芸術監督(2005-2006)を経て、2006年4月より東京都現代美術館チーフキュレーター、多摩美術大学芸術学科教授。イスタンブール・ビエンナーレ総合コミッショナー(2001)、第4回上海ビエンナーレ・コ・キュレーター(2002)、第50回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー(2003)を務める。

宮島達男 (みやじま・たつお)

1957年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。現在、東北芸術工科大学副学長。1980年代半ばから1から9までの数字によるLEDのデジタルカウンターを使用した作品を発表し国際的な評価を得る。1988年にヴェネチア・ビエンナーレのアペルト部門への参加を皮切りに、国内外での重要な現代美術展に多数参加。1998年、ベネッセアートサイト直島において家プロジェクト「角屋」を制作。

森万里子 (もり・まりこ)

現在NY在住。ビデオインスタレーション「ニルヴァーナ」で1997年第47回ヴェネチア・ビエンナーレ優秀賞受賞。主な展覧会に「Mariko Mori: Dream Temple」(1999年、プラダ財団・イタリア)、「ピュアランド」(2002年、東京都現代美術館)、「WAVE UFO」(2003年、プレゲンツ美術館・オーストリア)。また、六本木ヒルズにパブリックアート「プラントオパール」(2009年)、豊島(香川)に「トムナフーリ」(2010年)が設置されている。

柳幸典 (やなぎ・ゆきのり)

1959年生まれ。イエール大学大学院修了。第45回ヴェネチア・ビエンナーレ、アペルト部門受賞(1993)、第6回五島記念文化財団美術新人賞受賞(1995)。サンパウロ・ビエンナーレ(1996)、光州ビエンナーレ(2000)など多数の国際展から招待される。1992年のベネッセハウスでの個展が契機となり瀬戸内海の多島美に触発され、1995年に島全体をアートサイトにする犬島プロジェクトを構想する。

横尾忠則 (よこお・ただのり)

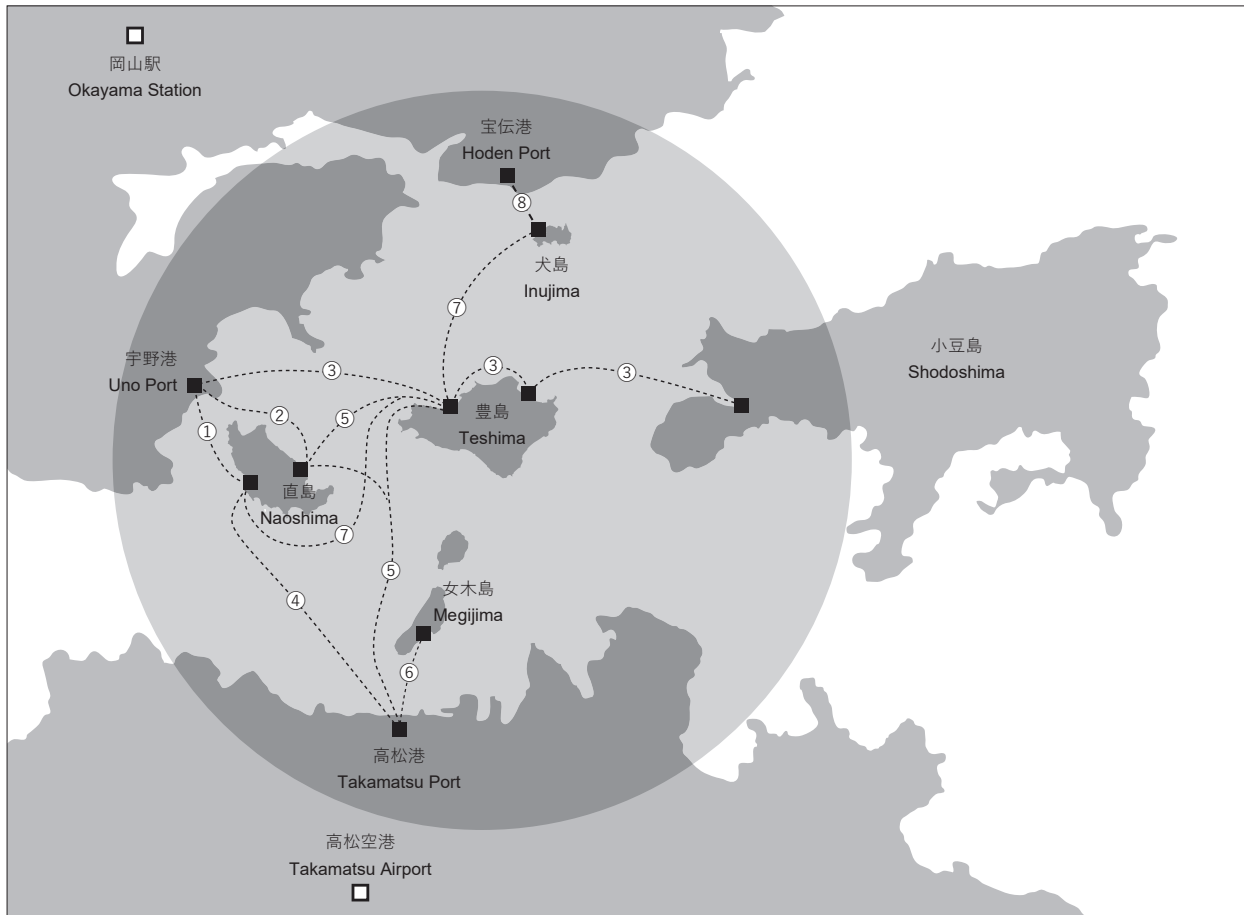
1936年兵庫県生まれ。パリ、ヴェネチア、サンパウロなど各国のビエンナーレに招待出品。国内外の美術館で多数の個展を開催。ニューヨーク近代美術館個展(1972年、アメリカ)、カルティエ現代美術財団個展(2006年、フランス)、金沢21世紀美術館個展(2009年、石川)、瀬戸内国際芸術祭(2010年、豊島)など。2012年神戸に県立横尾忠則現代美術館、2013年豊島(香川県)に豊島横尾館が開館。

李禹煥 (リウファン)

1936年大韓民国慶尚南道生まれ。1956年来日。1961年日本大学文学部哲学科卒業。多摩美術大学名誉教授。世界文化賞絵画部門受賞(2001)。主な展覧会:「Lee Ufan」展(2001年、ボン市立美術館、ドイツ)、「李禹煥 余白の芸術」展(2005年、横浜美術館)、「Resonance」展(2007年、ヴェネチア・ビエンナーレ、イタリア)、「LEE UFAN」展(2008年、ブリュッセル王立美術館、ベルギー)、「無限の提示」(2011年、グッゲンハイム美術館、アメリカ)。

(ベネッセハウス、犬島「家プロジェクト」の作家を除く)
※50音順

島へのアクセス



アクセス

【主要都市から岡山・高松へのアクセス】

・東京方面から

JR_東京駅→岡山駅(約3時間30分)

飛行機+バス_羽田空港→岡山空港(約1時間20分)、

岡山空港→岡山駅(バスで約30分)

飛行機+バス_羽田空港→高松空港(約1時間20分)

高松空港_高松駅(バスで約40分)

・大阪方面から

JR_関西国際空港→新大阪駅(約1時間)、新大阪駅→岡山駅(約1時間)

・名古屋方面から

JR_中部国際空港→名古屋駅(約30分)、名古屋駅→岡山駅(約1時間50分)

・福岡方面から

JR_福岡空港→博多駅(約5分)、博多駅→岡山駅(約2時間)

【岡山・高松から港へのアクセス】

・岡山から

直島、豊島へ_岡山駅→宇野港 JR、バスで約50分

犬島へ_岡山駅→宝伝港 バスで約1時間10分

・高松から

直島、豊島、犬島へ_高松駅→高松港 徒歩で約5分

※所要時間は道路状況によって前後する場合があります

【島へのアクセス】

・宇野港から直島へ

宇野港⇄直島(宮浦港)①

宇野港⇄直島(本村港)②

・宇野港から豊島、小豆島へ

宇野港⇄豊島(家浦港)⇄豊島(唐櫃港)⇄小豆島(土庄港)③

・高松港から直島へ

高松港⇄直島(宮浦港)④

・高松港から直島、豊島へ

高松港⇄直島(本村港)⇄豊島(家浦港)、高松港⇄豊島(家浦港)⑤

・高松港から女木島へ

高松港⇄女木島⑥

・直島から豊島・犬島へ

直島(宮浦港)⇄豊島(家浦港)⇄犬島港⑦

・宝伝港から犬島へ

宝伝港⇄犬島港⑧

取材に関するお申し込み・お問い合わせ

ベネッセアートサイト直島の各施設に関する取材・広報画像借用のお申し込み、お問い合わせは、
ベネッセアートサイト直島WEBサイトより受け付けています。

※原則として、各種媒体へのご掲載の際は公式画像・公式映像をご使用ください。
※撮影趣旨・企画内容によってはご遠慮いただく場合がございますので予めご了承ください。
(観光地としてのご紹介はお断りさせていただいております)

ベネッセアートサイト直島 プレスページ

<https://benesse-artsite.jp/contact/press/>

お問い合わせ

【ベネッセホールディングス運営のプロジェクト】

直島…ベネッセハウス、家プロジェクト、杉本博司ギャラリー、ヴァレーギャラリー

株式会社ベネッセホールディングス ベネッセアートサイト直島 広報担当

住所：〒761-3110 香川県香川郡直島町850-2

Tel: 087-892-2887 Fax: 087-840-8277

BASN-press@mail.benesse.co.jp

【福武財団運営のプロジェクト】

直島…地中美術館、直島銭湯「I♥湯」、李禹煥美術館、ANDO MUSEUM、

瀬戸内「」資料館／宮浦ギャラリー六区、The Naoshima Plan「水」、直島コメづくりプロジェクト

豊島…豊島美術館、心臓音のアーカイブ、豊島横尾館、豊島八百万ラボ、針工場、ささやきの森、トムナフーリ

犬島…犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」、犬島 ぐらしの植物園、INUJIMA アートランデブー

女木島…女根／めこん

公益財団法人 福武財団 広報担当

住所：〒761-3110 香川県香川郡直島町2249-7

Tel: 087-892-2550 Fax: 087-892-2011

press@fukutake-artmuseum.jp

ベネッセアートサイト直島

Benesse Art Site Naoshima

<https://benesse-artsite.jp/>

Benesse
Art Site
Naoshima

Naoshima

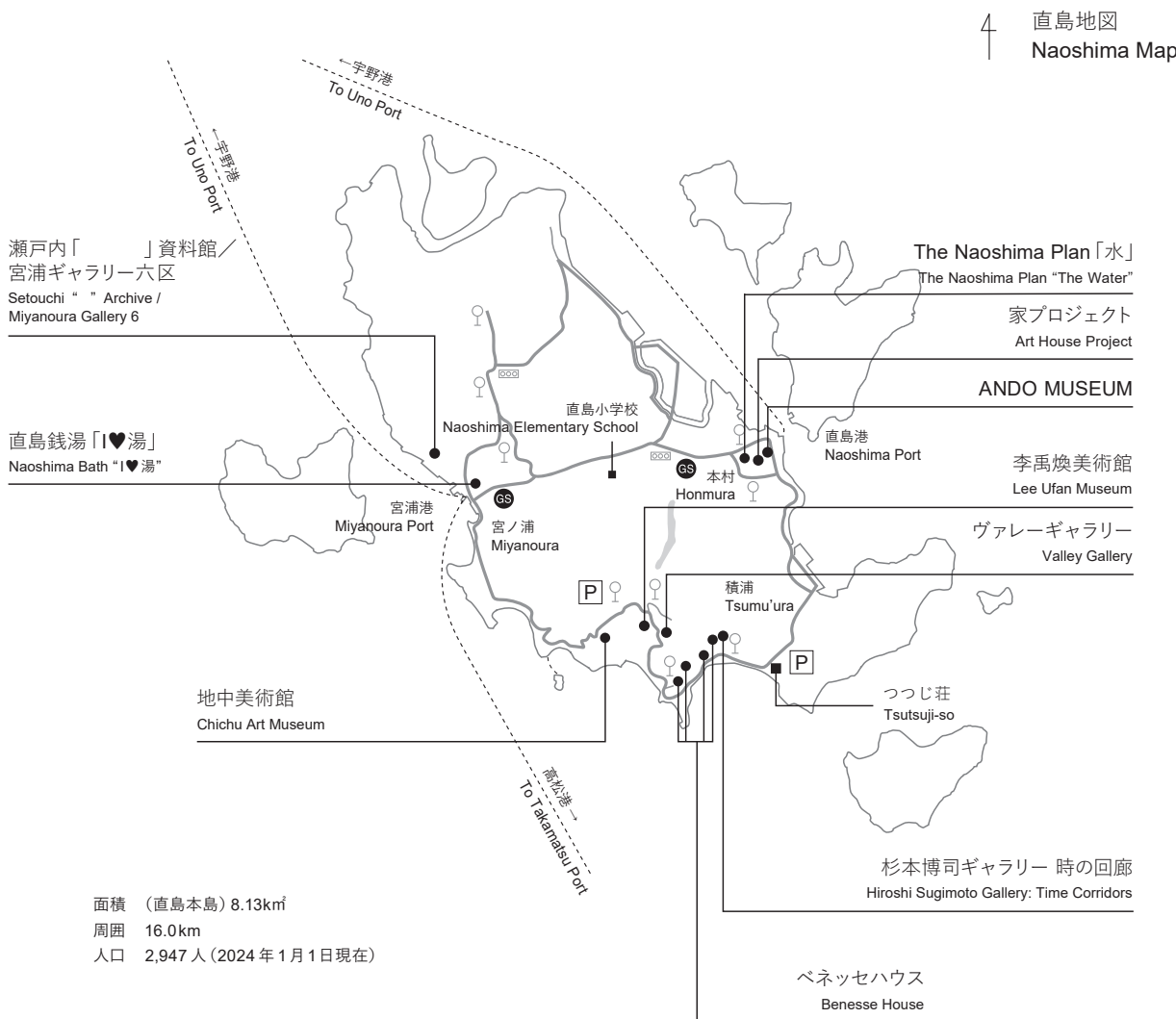
直島

2024 10.1

Benesse
Art Site
Naoshima

Map & About Naoshima

周辺地図 & 直島について



直島は香川県高松市の北約13km、岡山県玉野市の南約3kmに位置し、周囲の島々とあわせた直島諸島がそのまま香川県直島町となっています。花崗岩とその風化土に覆われる丘陵性の島で、平地は少なく、曲折の多い海岸線によって内海特有の白砂青松の自然美が形づくられています。

「直島」の由来は、保元の乱に敗れた崇徳上皇が讃岐へ配流される途中、この島に立ち寄られたとき、島民の純真素直さを賞して命名されたと伝えられています。その後徳川時代には、幕府の天領(直轄地)となり、瀬戸内海の海上交通の要衝を占め、海運業や製塩業の島として栄えました。

島内には、フェリーの発着港を擁する宮ノ浦、戦国時代の海城の城下町を原形とする本村(ほんむら)、古くからの漁港である積浦(つむうら)の3つの集落があります。このほか北側の三菱マテリアル直島製錬所では大正時代から銅の製錬が行われており、周辺の関連企業と合わせて大規模な工業地帯となっています。中央は直島小学校、直島中学校のある文教区です。南部は瀬戸内海国立公園に含まれており、自然の美しさが残されています。主な産業としては三菱マテリアル関連、ハマチや海苔の養殖漁業などが挙げられます。

1

Benesse House

ベネッセハウス



ベネッセハウスは美術館とホテルの機能を兼ね備えた施設です。「自然・建築・アートの共生」をコンセプトに1992年にオープンしました。

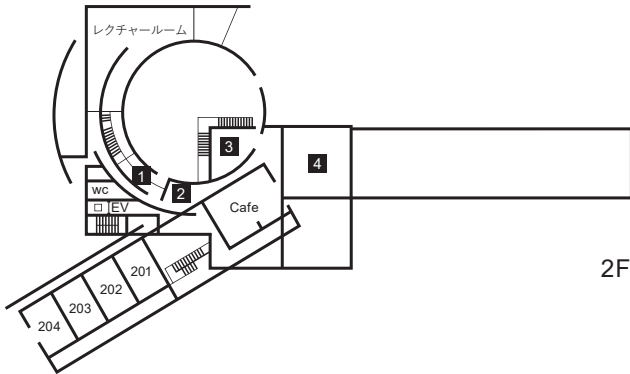
「ミュージアム」は、島の南の高台に瀬戸内海を望んで建つ安藤忠雄設計の建物。外に向かって大きく開かれた構造をもち、室内にいても常に外部の自然を感じることができます。

ここでは直島の自然と安藤忠雄設計の建築という場所の特性をとりこみ、アーティストたちがその場所のために制作したサイトスペシフィック・ワークを永久展示しています。作家たちはここを訪れ、自ら場所を選び作品を制作します。作品は展示スペースにとどまらず、館内のいたるところに設置され、施設をとりまく海岸線や林の中にも点在しています。直島の自然と時間のなかでゆっくりと滞在してアートを鑑賞していただくことができます。

Art Works

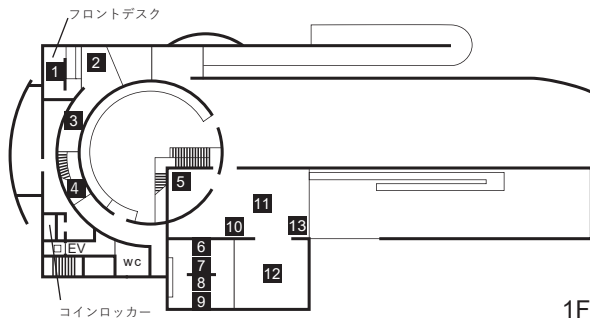
ベネッセハウス 作品紹介

Benesse House Museum | ベネッセハウス ミュージアム



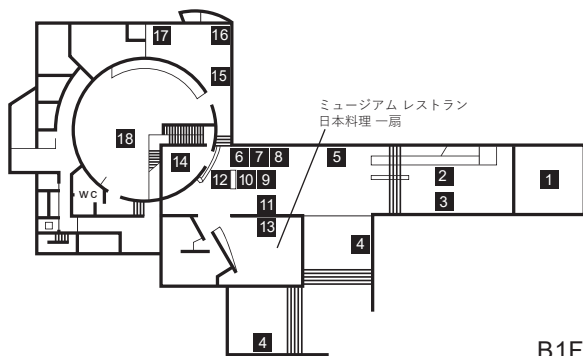
2F

1. 須田悦弘「雑草」2002
2. 安藤忠雄「ベネッセハウス模型、ドローイング」1996
3. 大竹伸朗「シップヤード・ワークス 船底と穴」1990
4. ベネッセハウス ミュージアム関連展示



1F

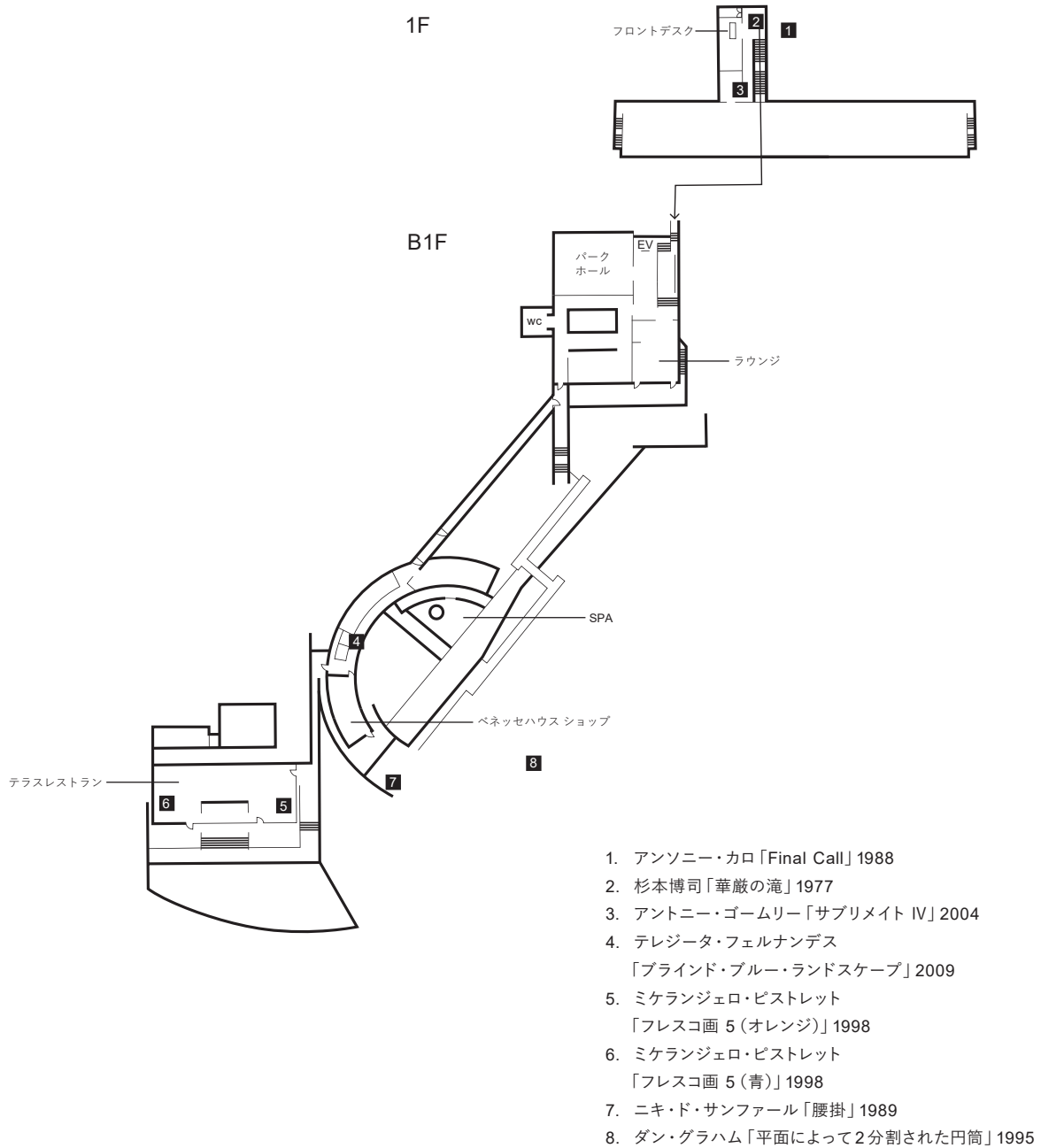
1. 柳幸典「ワン・ダラー」1999
2. アルベルト・ジャコメッティ「石碑上のディエゴ」1962
3. セザール「モナコを讀めてMC12」1994
4. 柳幸典「ザ・フォービドゥン・ボックス」1995
5. 柳幸典「バンザイ・コーナー 1996」1996
6. 王広義（ワン・グァンイー）「大批判：ディズニー」2000
7. エルムグリーン&ドラッグセット「ハイウェイ・ペインティング No.9」2019
8. 朴栖甫（パク・ソポ）「描法 No.180105」2018
9. 張曉剛（ジャン・シャオガン）「血縁：大家族 No.10」2000
10. リチャード・ロング「瀬戸内海のエイヴォン川の泥の環」1997
11. リチャード・ロング「瀬戸内海の流木の円」1997
12. リチャード・ロング「十五夜の石の円」1997
13. リチャード・ロング「60分歩く」1990



B1F

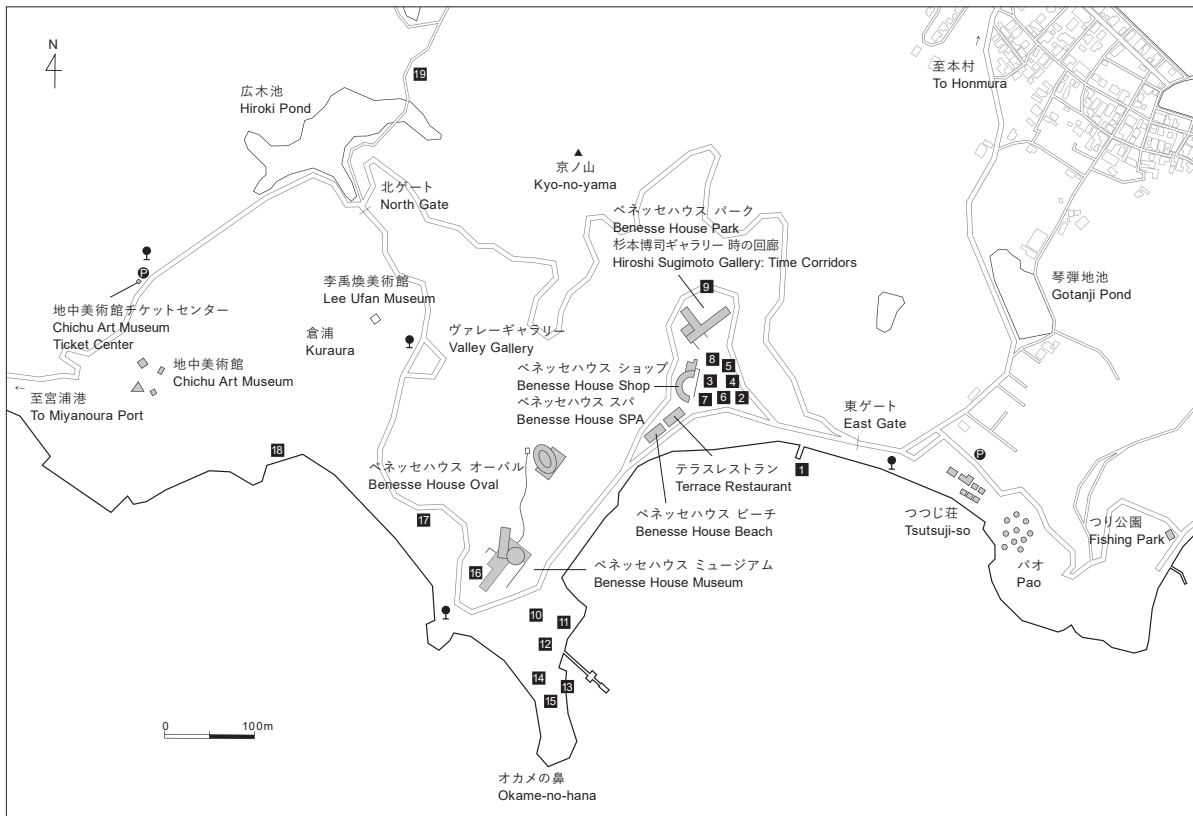
1. 安田侃「天秘」1996
2. ジョナサン・ゴロフスキー「3人のおしゃべりする人」1986
3. 柳幸典「ザ・ワールド・フラッグ・アント・ファーム 1990」1990
4. 杉本博司「タイム・エクスポーズド」1980-97
5. ジェニファー・バートレット「黄色と黒のポート」1985
6. デイヴィッド・ホックニー「ホテル・アカトラン 2週間後」1985
7. デイヴィッド・ホックニー「ホテル・アカトラン 2日目」1985
8. デイヴィッド・ホックニー「ホテル・アカトラン 1日目」1985
9. ジョエル・シャピロ「無題」2013
10. デイヴィッド・ホックニー「木と空が映ったプール」1978
11. デイヴィッド・ホックニー「ホテル・アカトラン 中庭の回遊」1985
12. ゲルハルト・リヒター「ベティ」1991
13. トーマス・ルフ「基層 26II」2005
14. 宮島達男「Counter Circle No.18」1993
15. 杉本博司「カンブリア紀」1992
16. ヤニス・クネリス「無題」1996
17. ヤニス・クネリス「無題」1983
18. ブルース・ナウマン「100生きて死ぬ」1984

Benesse House Park | ベネッセハウス パーク



Benesse House Outdoor Works | ベネッセハウス周辺作品

1. 草間彌生「南瓜」2022
2. カレル・アペル「かえると猫」1990
3. ニキ・ド・サンファール「会話」1991
4. ニキ・ド・サンファール「らくだ」1991
5. ニキ・ド・サンファール「象」1991
6. ニキ・ド・サンファール「猫」1991
7. ニキ・ド・サンファール「腰掛」1989
8. ダン・グラハム「平面によって2分割された円筒」1995
9. アンソニー・カロ「Final Call」1988
10. ジョージ・リッキー「三枚の正方形」1972-82
11. 片瀬和夫「茶のめ」1987-94
12. ウォルター・デ・マリア
「見えて／見えず 知って／知れず」2000
13. 杉本博司「タイム・エクスポーズド ミルア海、スーニオン」1990
14. 大竹伸朗「シップヤード・ワークス 切断された船首」1990
15. 大竹伸朗「シップヤード・ワークス 船尾と穴」1990
16. ジョージ・リッキー「フォー・ラインズ」1978-88
17. 蔡國強「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」1998
18. 杉本博司
「タイム・エクスポーズド カリブ海、ユカタン」1990
19. 三島喜美代「もうひとつの再生 2005-N」2001-05



Valley Gallery | ヴァレーギャラリー

開館時間: 9:30～16:00 (最終入館 15:30)

鑑賞料金: ベネッセハウス ミュージアムの入館料に含む (ヴァレーギャラリー現地でも同チケットを購入可能)

ベネッセハウスと地中美術館の間にある、李禹煥美術館向かいの山間に位置します。祠をイメージした安藤忠雄設計の半屋外建築と、その周辺の屋外空間一帯を含めたヴァレーギャラリーの整備により、自然の中に点在するベネッセハウスの各棟や美術館施設が繋がり、鑑賞者にエリア全体のランドスケープの体感を促し、海だけでなく、改めて季節ごとに異なる顔を見せる豊かな山の植栽を楽しんでいただけます。建物内外では草間彌生の《ナルシスの庭》が大規模に展開され、2006年より池の横に恒久展示されている小沢剛の《スラグブツダ 88 - 豊島の産業廃棄物処理後のスラグで作られた88体の仏》も一部改変され、自然・建築・アートの共鳴をより深く体験していただける展示となっています。

作品紹介

展示作品 (※作品は今後状況に応じて数年毎に展示替えを行う予定)

草間彌生《ナルシスの庭》1966/2022年 (JT International SA 寄贈・公益財団法人 福武財団所蔵)

小沢剛《スラグブツダ 88 - 豊島の産業廃棄物処理後のスラグで作られた88体の仏》2006/2022年 (恒久設置)

建築: 安藤忠雄

アートディレクション: 三木あき子

Hotel

ベネッセハウス 宿泊のご案内

ベネッセハウスは「ミュージアム」のほかに、「ミュージアム」からモノレールで移動する高台にある「オーバル」、海辺に開けた「パーク」「ビーチ」の4つの棟からなり、65室の客室を備えています。「パーク」「ビーチ」は安藤忠雄の設計としては数少ない木造2階建てで、周囲の林にとけこむような姿をとり、さらにリサイクルしやすい集成材を使うなど、環境に対する配慮もなされています。

Guest room | ゲストルーム

	室数	通常シーズン料金	ハイシーズン料金
ミュージアム	10 (スイート2室含む)	50,600円～	56,925円～
オーバル	6 (スイート2室含む)	73,370円～	79,695円～
パーク	41 (スイート2室含む)	41,745円～	48,070円～
ビーチ	8 (全室スイート)	99,935円～	112,585円～

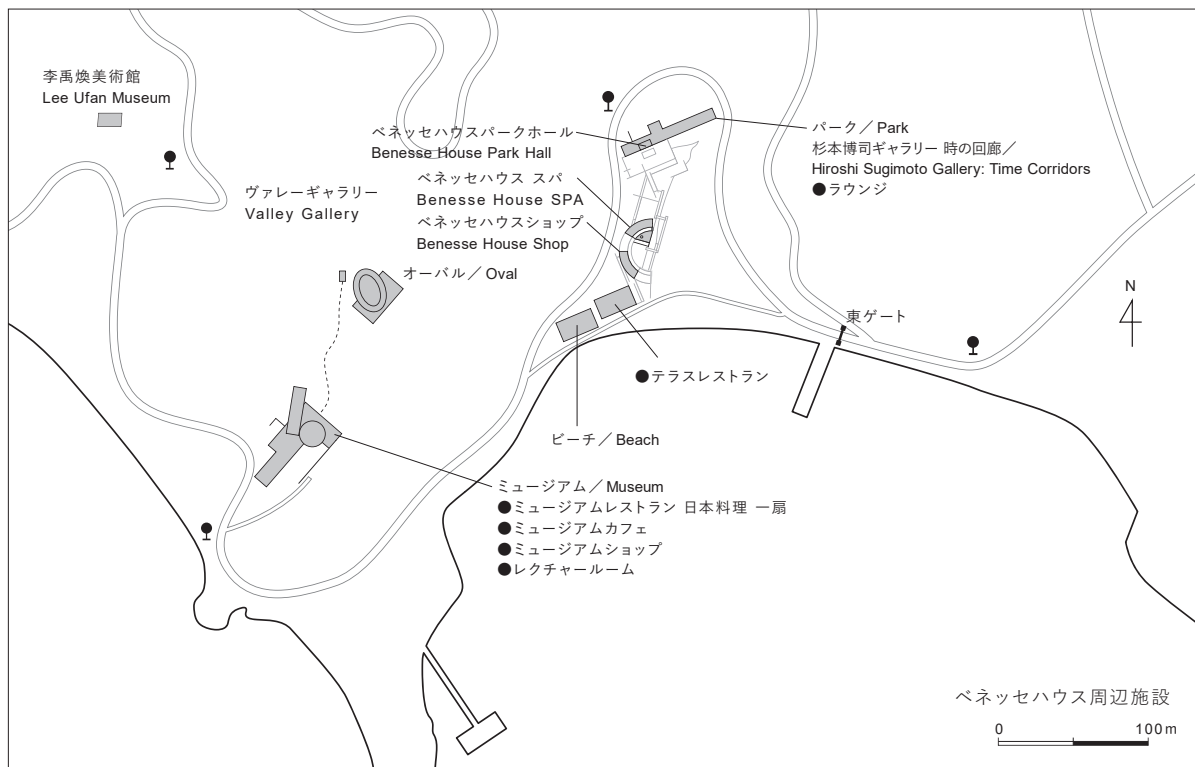
※料金は1～2名様利用時の室料。

※料金は宿泊日により変動します。

※ミュージアム・オーバルに関しては、ゆったりと過ごしていただくコンセプトから

6歳未満のお子様のご利用はご遠慮いただいています。

※オーバルには、オーバルにご宿泊の方のみお立ち入りいただけます。



所在地 〒761-3110 香川県香川郡直島町琴弾地

予約・問い合わせ

Tel: 087-892-3223 (受付時間9:00～18:00) Fax: 087-892-2259

Mail: naoshima@mail.benesse.co.jp HP: <https://benesse-artsite.jp/stay/>

Restaurant & Cafe | レストラン&カフェ

・ミュージアムレストラン 日本料理 一扇

ベネッセハウス ミュージアムの地階にあるレストランです。大きな開口部をもつ店内からは、どの席からも瀬戸内海と現代アートを鑑賞でき、非日常的な空間でのお食事を楽しんでいただけます。瀬戸内の海の幸を素材にした会席料理を中心にした夕食をはじめ、季節感溢れるメニューを朝食・昼食とともにご用意しています。

[利用案内]

営業時間 朝食 7:30～10:00 (最終入店 9:30)
 昼食 11:30～14:30 (ラストオーダー 14:00)
 夕食 18:00～19:45 / 20:00～21:45 (二部制)
 ※夕食のみ小学生未満のお子様のご利用はご遠慮いただいています。

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウス ミュージアム B1F

席数 32席

料金 朝食 ¥3,300 (和朝食/洋朝食)
 昼食 ¥2,200～
 夕食 ¥13,970～(会席料理) ほか
 ※昼食でも一部予約の必要なメニューもございます。
 ※メニュー、料金は予告なく変更する場合がございます。

[鑑賞できる作品]

トーマス・ルフ「基層26II」2005
 杉本博司「タイム・エクスポーズド」1980-97

・ミュージアムカフェ

ベネッセハウス ミュージアムの2階にあるカフェです。南と西に大きく開いた開口部から自然光が降り注ぐ解放感ある店内では、眼下に広がる瀬戸内海を眺めながら軽食やお飲み物を気軽に楽しんでいただけます。ベネッセハウスミュージアム関連書籍をはじめ、お土産に最適なアートグッズを取りそろえたショップを併設しています。

[利用案内]

営業時間 10:00～17:00 (ラストオーダー 16:30)

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウス ミュージアム 2F

席数 30席

[鑑賞できる作品]

大竹伸朗「シップヤード・ワークス 船底と穴」1990
 ジョージ・リッキー「フォー・ラインズ」1978-88

・テラスレストラン

瀬戸内海に面した大きな窓と高い天井が特徴の解放感あるレストランです。朝食は瀬戸内海の穏やかな海景を望みながら。夕食時には暮れゆく光の移り変わりの中でフランス料理をお楽しみいただけます。素材本来の味をそのままお皿に盛り込んだメニューを心ゆくまでお楽しみください。

[利用案内]

営業時間 朝食 7:30～10:00 (最終入店 9:30)
 夕食 18:00～(ラストオーダー 21:00)

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウス パーク隣接

席数 90席

料金 朝食 ¥3,300 (ビュッフェ)
 夕食 ¥13,970 (シエル)、¥17,710 (ラ・メール)
 ※夕食はアラカルトもございます。
 ※メニュー、料金は予告なく変更する場合がございます

[鑑賞できる作品]

ミケランジェロ・ピストレット
 「フレスコ画 5 (オレンジ)」1998
 「フレスコ画 5 (青)」1998

・ラウンジ

ベネッセハウス パーク地階にあるラウンジです。2022年3月に杉本博司氏主宰の新素材研究所によって改修されました。ベネッセハウスにご宿泊のお客様、「杉本博司ギャラリー 時の回廊」をご鑑賞のお客様のみご利用いただけます。オリジナルのカクテルなどをお楽しみ頂けるパーティタイムを週末(木・金・土・祝前日)のみご用意しています。

[利用案内]

営業時間 7:00～23:00
 ・7:00～10:00 / 15:00～23:00
 ベネッセハウスにご宿泊のお客様がご利用いただけます。
 ・11:00～15:00
 「杉本博司ギャラリー 時の回廊」をご鑑賞のお客様のみご利用いただけます。

定休日 年中無休

場所 ベネッセハウス パーク

席数 38席

[鑑賞できる作品]

杉本博司
 「Opticks 020」2018 「三種の神樹―柝の樹」2022
 「Opticks 073」2018 「On the Beach 001」1990/2014
 「Opticks 080」2018 「On the Beach 007」1990/2014
 「プリズム」2002 「On the Beach 017」1990/2014
 「三種の神樹―神代杉」2022 「On the Beach 018」1990/2014
 「三種の神樹―屋久杉」2022 「硝子の茶室『聞鳥庵』」2014 * 屋外作品

Shop | ショップ

・ミュージアムショップ

ベネッセハウス ミュージアムの2階にあるショップです。ベネッセハウスミュージアムやベネッセアートサイト直島の関連書籍をはじめ、お土産に最適なアートグッズを取りそろえています。店内では眼下に広がる瀬戸内海を眺めながら軽食やお飲み物をお楽しみいただけるカフェも併設しています。

[利用案内]

営業時間 10:00～17:00
定休日 年中無休
場所 ベネッセハウス ミュージアム2F

・ベネッセハウスショップ

ベネッセハウス パークに隣接し、草間彌生「南瓜」にもほど近い場所にあるショップです。アートグッズや香川県産のお菓子、ベネッセハウス客室で使用しているアメニティなどのホテルグッズを取りそろえています。ベネッセハウスにご宿泊以外のお客様でも気軽にお立ち寄りいただけます。

[利用案内]

営業時間 8:30～19:00
定休日 年中無休
場所 ベネッセハウス テラスレストラン横

Spa | スパ

・ベネッセハウス スパ

ベネッセハウス スパは、直島の自然を身近に感じていただける特別な空間で、オリジナルのトリートメントを通じて五感を呼び覚まし、身体と心、そして精神を解き放つことで得られる特別な時間をお過ごしいただけます。

[利用案内]

営業時間 15:00～20:00 (最終受付18:00)
定休日 年中無休

[鑑賞できる作品]

イミ・クネーベル「扉と門」1998年
ローズマリー・トロツケル「フォーリング・ブルー、ライジング・レッド」1998年

2

Hiroshi Sugimoto Gallery: Time Corridors

杉本博司ギャラリー 時の回廊

アート

杉本博司

建築

安藤忠雄



杉本博司ギャラリーは、杉本の直島における長年にわたる取組みが、作家の究極の作品とも言える小田原の《江之浦測候所》の生まれるきっかけとなった経緯から、創作活動のひとつの原点とも言える直島と江之浦を繋げる形で構想されました。江之浦測候所が建築と作庭などが中心となっているのに対し、本ギャラリーは、杉本博司の代表的な写真作品やデザイン、彫刻作品などを継続的かつ本格的に鑑賞できる世界的にも他に例をみない展示施設です。「時の回廊」とは、建築空間や自然環境を回遊し体感することを促す安藤建築の特徴や、杉本博司が追求し続ける時間に対する問い、そして彼らの長年にわたる直島との関係性などを反映し、鑑賞者に自然の変化や壮大な時間の流れを体感、歴史や生きることについて思索を巡らせてもらうことを意図するものです。

Hiroshi Sugimoto Gallery:Time Corridors

杉本博司ギャラリー 時の回廊

杉本博司ギャラリーは、杉本の直島における長年にわたる取組みが、作家の究極の作品とも言える小田原の《江之浦測候所》の生まれるきっかけとなった経緯から、創作活動のひとつの原点とも言える直島と江之浦を繋げる形で構想されました。江之浦測候所が建築と作庭などが中心となっているのに対し、本ギャラリーは、杉本博司の代表的な写真作品やデザイン、彫刻作品などを継続的かつ本格的に鑑賞できる世界的にも他に例をみない展示施設です。「時の回廊」とは、建築空間や自然環境を回遊し体感することを促す安藤建築の特徴や、杉本博司が追求し続ける時間に対する問い、そして彼らの長年にわたる直島との関係性などを反映し、鑑賞者に自然の変化や壮大な時間の流れを体感、歴史や生きることについて思索を巡らせてもらうことを意図するものです。

作品紹介

展示作品（※作品は今後状況に応じて数年毎に展示替えを行う予定）

既存作品：《カボット・ストリート・シネマ、マサチューセッツ》1978年

《カリブ海、ジャマイカ》1980年

《ワールド・トレード・センター》1997年

《光の教会》1997年

《ノートルダム・デュ・オー礼拝堂》1998年

《聖ベネディクト礼拝堂》2000年

《松林図》2001年

《観念の形 003 オンデュロイド：平均曲率が0でない定数となる回転面》2005年

《光学硝子五輪塔 ポーデン湖、ウットヴィル》2009/1993年

《ハイエナ、ジャッカル、コンドル》1976年

《華巖の滝》1977年

《日本海、隠岐》1987年

《アイリッシュ海、マン島》1990年

《On the Beach 001》1990/2014年

《On the Beach 007》1990/2014年

《On the Beach 017》1990/2014年

《On the Beach 018》1990/2014年

《プリズム》2002年

《護王神社模型》2003年

《光学硝子五輪塔 日本海、礼文島》2012/1996年

《光学硝子五輪塔 相模湾、熱海》2012/1997年

《光学硝子五輪塔 オホーツク海、北海道》2012/1989年

《硝子の茶室「聞島庵」》2014年

《Past Presence 070 大きな女性像 III アルベルト・ジャコメッティ》2016年

《Opticks 020》2018年

《Opticks 073》2018年

《Opticks 080》2018年

《三種の神樹－神代杉》2022年

《三種の神樹－屋久杉》2022年

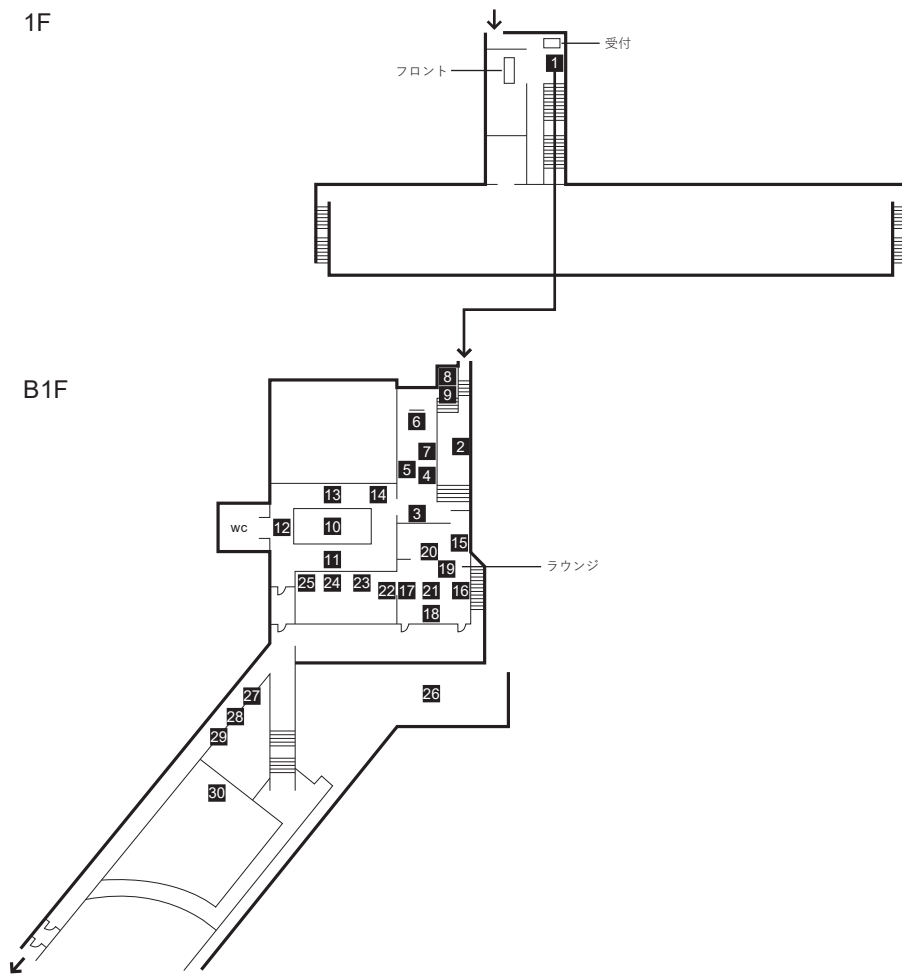
《三種の神樹－栃の樹》2022年

アート 杉本博司

建築 安藤忠雄

改修設計：新素材研究所、プロジェクトアーキテクト 福岡大 施工：イシマル

アートディレクション：三木あき子

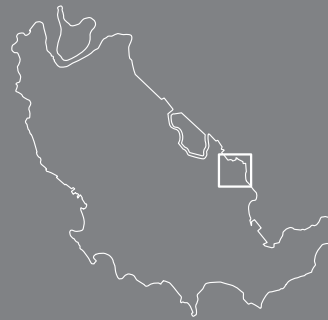


1. 「華厳の滝」1977年
2. 「松林図」2001年
3. 「光の教会」1997年
4. 「聖ベネディクト礼拝堂」2000年
5. 「ノートルダム・デュ・オー礼拝堂」1998年
6. 「ワールド・トレード・センター」1997年
7. 「光学硝子五輪塔 ポーデン湖、ウットヴィル」2009/1993年
8. 「護王神社模型」2003年
9. 「日本海、隠岐」1987年
10. 「観念の形003 オンデュロイド：
平均曲率が0でない定数となる回転面」2005年
11. 「カリブ海、ジャマイカ」1980年
12. 「ハイエナ、ジャッカル、コンドル」1976年
13. 「カボット・ストリート・シネマ、マサチューセッツ」1978年
14. 「Past Presence 070、大きな女性像 III、
アルベルト・ジャコメッティ」2016年
15. 「Opticks 073」2018年
16. 「Opticks 080」2018年
17. 「Opticks 020」2018年
18. 「プリズム」2002年
19. 「三種の神樹—神代杉」2022年
20. 「三種の神樹—屋久杉」2022年
21. 「三種の神樹—栃の樹」2022年
22. 「On the Beach 017」1990/2014年
23. 「On the Beach 007」1990/2014年
24. 「On the Beach 018」1990/2014年
25. 「On the Beach 001」1990/2014年
26. 「硝子の茶室『聞鳥庵』」2014年
27. 「光学硝子五輪塔 日本海、礼文島」2012/1996年
28. 「光学硝子五輪塔 相模湾、熱海」2012/1997年
29. 「光学硝子五輪塔 オホーツク海、北海道」2012/1989年
30. 「アイリッシュ島、マン島」1990年

3

Art House Project

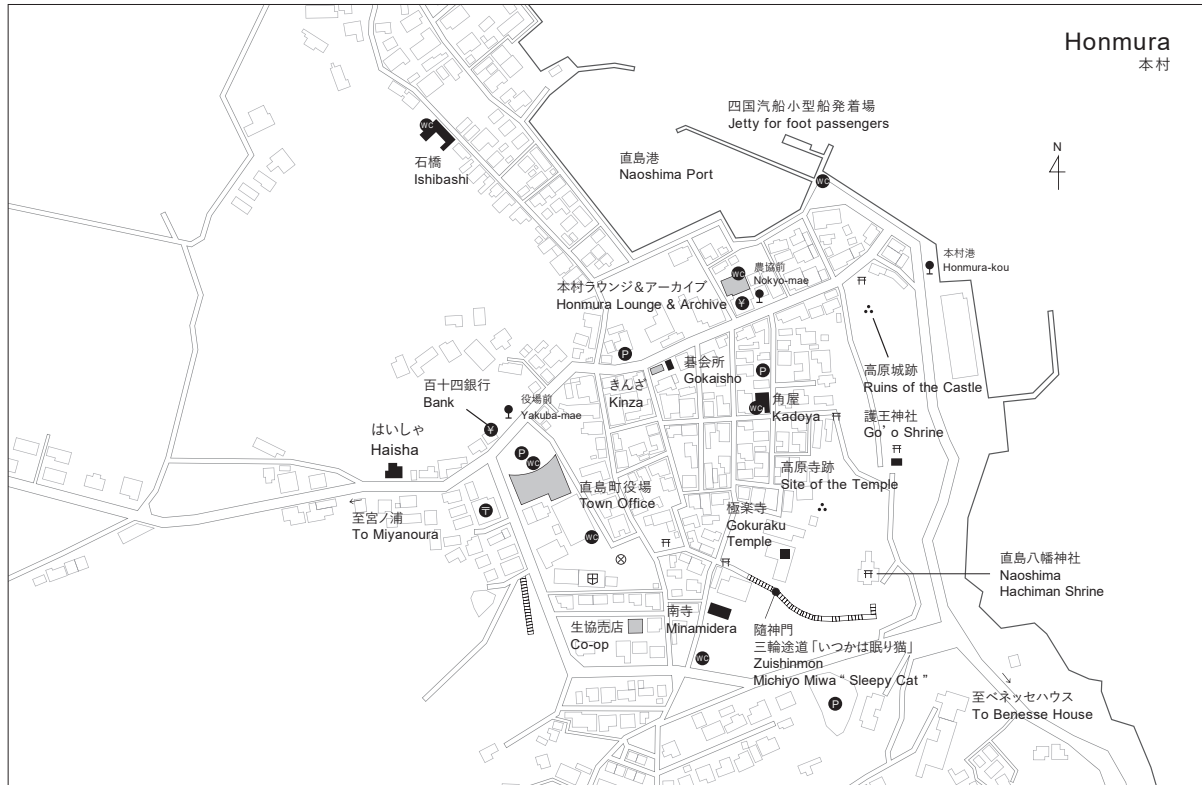
家プロジェクト



家プロジェクトは、直島の本村地区を舞台とした常設のアートプロジェクトです。古い家屋の改修の域を越え、アーティストが空間そのものを作品化したものであり、それぞれの建物、ひいてはそこで営まれていた生活や日本の伝統、美意識に対峙した空間が形づくられています。そして、完成後の作品を温かく見守ってくださる住民の方々の協力も得て、家プロジェクトは、アートと建築、そして地域とのコラボレーションによって、「場」の新たな力を生起させるプロジェクトになりつつあります。

Art Works

家プロジェクト作品介绍



1. 角屋 (1998)

「角屋」は家プロジェクトの第1弾として完成しました。家屋は200年ほど前に建てられた本村でも大きな家の一つです。外観は、漆喰仕上げ、焼板、本瓦を使った元の姿に修復されています。宮島達男の作品のうち「Sea of Time '98」の制作には町の人々も参加しました。

[作品]

宮島達男

「Sea of Time '98」1998/2018

「Naoshima's Counter Window (ナオシマ・カウンター・ウィンドウ)」1998

「Changing Landscape (チェンジング・ランドスケープ)」1999

[建築]

修復監修：山本忠司

施工：まつもとコーポレーション

2. 南寺 (1999)

この近辺には極楽寺や八幡神社などがあり、直島の歴史的、文化的な中心地となっています。「南寺」は新たに建てられた建物ですが、かつてここに実在していたお寺が人々の精神的な拠り所であったという記憶をとどめようとしています。内部のジェームズ・タレルの作品のサイズにあわせ、安藤忠雄が建物を設計しました。

[作品]

ジェームズ・タレル

「Backside of the Moon (バックサイド・オブ・ザ・ムーン)」1999

[建築]

設計：安藤忠雄

施工：鹿島建設、ナイカイアーキテクト

3. きんざ (2001)

「きんざ」の建物は築約200年の小さな家屋でした。屋根や柱などの構造はそのままに、伝統的な技術を使いつつも、ここでは家屋そのものが外壁も含め作品化されています。

[作品]

内藤礼

「このことを」2001

[建築]

構想・基本設計：内藤礼

実施設計：木村優、永田直 (アートステーション)

施工：まつもとコーポレーション

4. 護王神社 (2002)

江戸時代から祀られている護王神社の改築にあわせ、本殿と拝殿の建物、また拝殿の地下の石室を杉本博司が設計しました。石室と本殿とはガラスの階段で結ばれていて、地下と地上とが一つの世界を形成しています。本殿と拝殿は、伊勢神宮など初期の神社建築の様式を念頭に、さらに作家自身の美意識に基づくものとなっています。

[作品]

杉本博司

「Appropriate Proportion (アプロプリエイト プロポーション)」2002

[建築]

設計：杉本博司

設計協力：木村優、設楽敏生 (アートステーション)

施工：鹿島建設、ナイカイアーキテクト

※本殿は改修工事、拝殿は新築工事。

5. 石橋 (2006)

石橋家は明治時代、製塩業で栄えました。直島では、古くから製塩業が人々の生活を支えてきた歴史があり、直島の歴史や文化をとらえるという観点からも、家そのものの再建に重点がおかれまして。2006年より倉にて公開されている“滝”を題材とした「ザ・フォールズ」に続き、2009年10月より母屋にて「空の庭」を公開しています。

[作品]

千住博

「空の庭」2009

「ザ・フォールズ」2006

[建築]

空間デザイン: 千住博、秋元雄史

修復監修: 福武総一郎、本多忠勝

施工: ナイカイアーキテクト

表具: 鈴栄経師 (表具師: 鈴木源吾)

所蔵 (建物): (公財) 福武財団

6. 碁会所 (2006)

「碁会所」という名称は、昔、碁を打つ場所として島の人々が集まっていたことに由来します。建物全体を作品空間として須田悦弘が手がけ、一方には速水御舟の「名樹散椿」から着想を得て作られた作品「椿」と本物の竹が、また一方には木彫りによる竹の作品が展示されています。つまり、建物と彫刻作品の双方から成る空間そのものが作品となっています。庭には本物の五色椿が植えられており、作品の椿と対比的な効果を作り出しています。

[作品]

須田悦弘

「椿」2006-2010

[建築]

空間デザイン: 須田悦弘、秋元雄史

修復監修: 本多忠勝

施工: ナイカイアーキテクト

所蔵: (公財) 福武財団

7. はいしゃ (2006)

かつて歯科医院兼住居であった建物を、大竹伸朗がまるごと作品化しています。家のあるところは彫刻的であり、または絵画的であり、あるいはさまざまなのがスクラップされているなど、多様なスタイルが盛り込まれています。作品タイトルの「舌上夢」という言葉は、何かを口にしている時、味や匂いなどの感覚からたどる夢の記憶のプロセスを表現しています。

[作品]

大竹伸朗

「舌上夢／ポッコン眼」2006

[建築]

空間デザイン: 大竹伸朗

修復監修: 秋元雄史、本多忠勝

施工: ナイカイアーキテクト

所蔵: (公財) 福武財団

本村ラウンジ&アーカイブ

ベネッセアートサイト直島のプロジェクトに関わりのあるアーティストや建築家の書籍や資料を収集・公開しています。また、関連グッズや書籍、家プロジェクトの鑑賞チケットなどを販売する本村ラウンジストアも併設されています。

※建物は以前、農協のスーパーマーケットとして使用されてきました。その基本的な構造をほぼ残し、建築家・西沢立衛氏が空間をデザインしました。2Fはベネッセアートサイト直島のスタッフのオフィスとして使用されています。(2Fは非公開)

[利用案内]

営業時間 9:30 ~ 16:30

定休日 月曜日 (祝日の場合は開館、翌日休館)

場所 香川県香川郡直島町850-2

[問い合わせ]

Tel: 087-840-8273

Fax: 087-840-8277

Mail: BASN-archive@mail.benesse.co.jp

[建築]

空間デザイン: 西沢立衛

[鑑賞できる関連作品]

レオ・ヴィラリアル「チェイシング・レインボー」2004

杉本博司「護王神社」2002

[本村で鑑賞できる関連作品]

三輪途道「いつかは眠り猫」2006

場所: 八幡神社随神門

1998年、日本を代表するアーティストである宮島達男、改修工事監修者として建築家・山本忠司(故人)、そして作品の制作過程に住民の方々の参加を得て、家プロジェクトの第1弾「角屋」は完成しました。現在までに7軒が同じ手法、つまりアートと建築、地域とのコラボレーションによって制作されています。

4

Chichu Art Museum

地中美術館

アート

クロード・モネ
ウォルター・デ・マリア
ジェームズ・タレル

建築

安藤忠雄



地中美術館は、「自然と人間を考える場所」として2004年に設立されました。クロード・モネ、ウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルの作品が安藤忠雄設計の建物に恒久設置されています。

瀬戸内の美しい景観を損なわないよう建物の大半が地下に埋設されたこの美術館は、地下でありながら自然光が降り注ぎ、一日を通して、また四季を通して作品や空間の表情が刻々と変わります。

瀬戸内の静かな自然の発するリズムとその場に最もふさわしいアートと空間の中に身を置き、日本人が本来持つ精神性と、人間の知性、感性の刺激を体感していただければと思います。

開館日 2004年7月18日

Art Works

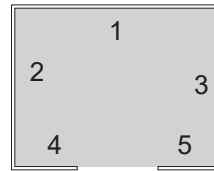
地中美術館 作品紹介

Claude Monet | クロード・モネ室

地中でありながら、自然光のみでモネの絵画5点を鑑賞することができる作品スペース。部屋のサイズ、デザイン、素材は、モネの絵と空間を一体にするために選定されました。展示作品はいずれもオランジュリー美術館（フランス）の大装飾画（グランド・デコレーション）に代表されるモネの最晩年の「睡蓮」シリーズです。

作品リスト

- 1.「睡蓮の池」c.1915-26年、油彩、2枚組、各200×300cm
- 2.「睡蓮-草の茂み」1914-17年、油彩、200×213cm（2009年収蔵作品）
- 3.「睡蓮」1914-17年、油彩、200×200cm
- 4.「睡蓮の池」1917-19年、油彩、100×200cm
- 5.「睡蓮-柳の反映」1916-19年、油彩、100×200cm



素材

床=大理石 [ピアンコカラーラ、モザイク:各20×20×20mm]

壁=砂漆喰

天井=プラスターボードEP

ガラスケース=低反射高透過ガラス、大理石 [タソスホワイト]

設計:秋元雄史、安藤忠雄

Walter De Maria | ウォルター・デ・マリア室

ウォルター・デ・マリアは、厳密な寸法とともに空間を提示し、そこに直径2.2mの球体と27体の金箔をほどこした木製の立体を配置し、空間全体を構成しました。作品スペースが東西に向いているため、日の出から日没の間、作品の表情が刻々と変化していきます。

作品リスト

- 1.「タイム/タイムレス/ノー・タイム」2004年

素材

作品=花崗岩、マホガニー材、金箔、コンクリート

床・壁=コンクリート

天井=プラスターボードEP、トップライト

設計:ウォルター・デ・マリア、安藤忠雄

James Turrell | ジェームズ・タレル室

光そのものをアートとして提示するジェームズ・タレルの作品は、それを正確に体験するためのスペースを伴うものであり、形態やサイズはタレル本人によって設計されます。所蔵作品3点は、タレルの初期から現在までの代表的なシリーズの中から選ばれたもので、タレルが求める光を年代を追って体験することができます。

作品リスト

- 1.「アフラム、ペール・ブルー」1968年
- 2.「オープン・フィールド」2000年
- 3.「オープン・スカイ」2004年

なお、「オープン・スカイ」では、閉館後、日没にかけて行うナイト・プログラムもご覧いただくことができます。
(要予約、別途料金必要。お申込みサイト <http://www.yoyaku-chichu.jp/j/>)

素材

「アフラム、ペール・ブルー」

作品=プロジェクター

床=コンクリート

壁・天井=プラスターボードEP

「オープン・フィールド」

作品=蛍光灯、ネオン管、

前室……階段=花崗岩 [ジンバブエ]、床=大理石 [ピエトラアズール]、壁・天井=プラスターボードEP

空間内……床・壁・天井=プラスターボードEP

「オープン・スカイ」

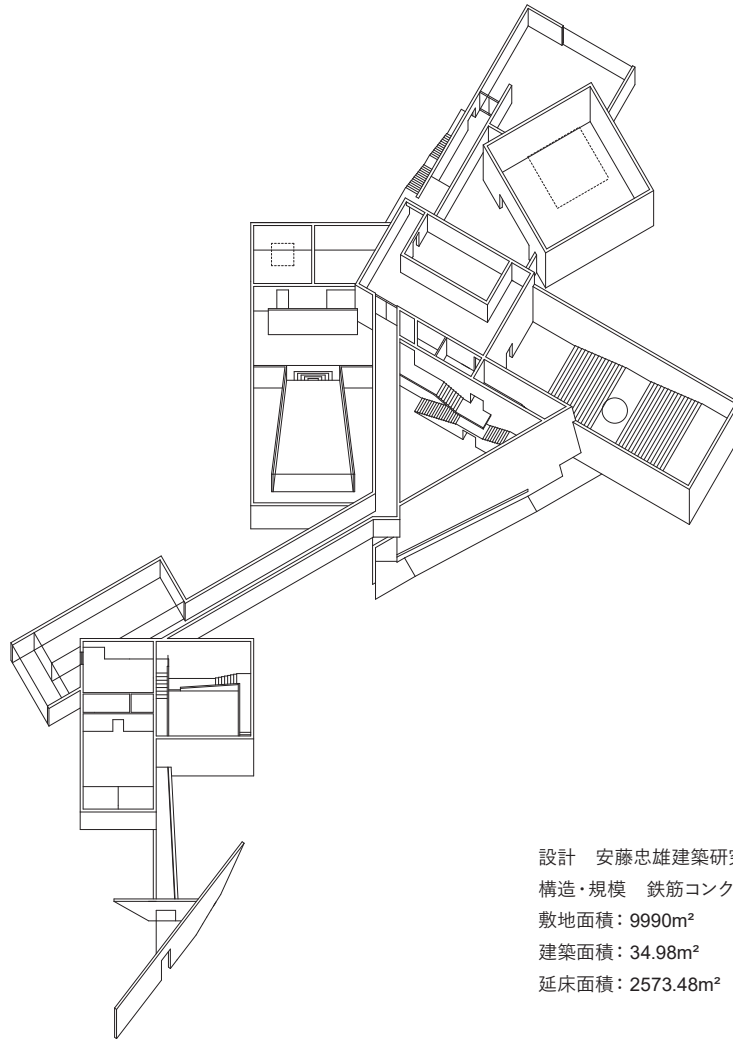
作品=LED、キセノンランプ

床=大理石 [ピエトラアズール]、壁・天井=城漆喰、椅子=大理石 [ピエトラアズール]

設計:ジェームズ・タレル、安藤忠雄

About Architecture

建築について 建築家：安藤忠雄



設計 安藤忠雄建築研究所
 構造・規模 鉄筋コンクリート造、地下3階
 敷地面積：9990m²
 建築面積：34.98m²
 延床面積：2573.48m²

瀬戸内海に浮かぶ小島の一つ直島につくられた、地中の美術館である。印象派のクロード・モネと現代美術のウォルター・デ・マリア、ジェームズ・タレルー三作家の作品が永久展示で納められている。

1988年の国際キャンプ場の監修から92年の直島コンテンポラリーアートミュージアム、95年のアネックスと、10余年にわたり、建築家として直島に関わってきた。地中美術館は、その延長に位置づけられる計画である。

敷地として選ばれたのは、既存のミュージアムの西方約600mにある、段状塩田の遺構を残す小高い丘だった。丘からは、美しい瀬戸内の海景が一望に見渡せる。この風景を壊さぬよう、建築を地形に沿って沈めるというアイデアは、ミュージアム、アネックスと一貫して意識してきたものである。地中美術館では、その手法をさらに推し進めて、塩田の遺構をそのまま残し、建物の全ヴォリュームを完全に地下に埋め込むよう計画した。

全体は、それぞれ正三角形、正方形のサンクンコートを中心を持つギャラリー棟とエントランス棟、それらをつなぐ溝状の屋外連

絡通路から構成される。

軸性、方向性の存在しない地中であって、これら〈地中の〉外部空間が切り取る幾何学図形が、唯一全体の構成を秩序付ける存在であり、地表面にはそのヴォイドの輪郭が、そのまま現される。

幾何学により分節されたスペースは、〈光〉によって性格づけられる。〈光〉と交錯する幾何学の生み出す空間の抑揚の中に、各々の作家及びディレクターとのコラボレーションによる、アートスペースが織り込まれる。

自身の建築の傾向として、自閉的、洞窟的な空間イメージが常に意識にあった。降り進むにつれて徐々に光が絞られ、冷たく静寂に包まれていく——地中にこそ、空間の原型に近づく手掛かりを感じていた。

地中に埋もれ見えない建築において、表層的な形の問題は意味を成さない。問われるのは、その内に展開される空間体験の深さ、純度だ。地中美術館の建築は、何より私自身にとって、大きな挑戦を意味する仕事だった。

Chichu Garden

地中の庭

地中の庭は、当館所蔵作品の作家であるクロード・モネが自ら造園したジヴェルニーの庭に植えていたとされる植物をベースに、約150種類の草花、40種類の樹木から構成される庭園です。

これらの植物は、地中の庭ガーデンアドバイザー・藤原良治氏が、ジヴェルニーを主題としてモネが描いた作品、資料などを調査した上で植物の選定をし、造園プランを作成しました。

「地中の庭」は、当館を訪れる人々にとって美術館での体験、作品に対する理解を深めるものです。「自然と人間との関係を考える場所」を開館コンセプトとして掲げる当館において、「地中の庭」はより近い距離で自然と接し、対話を楽しめる場所になると考えます。そして、当館を訪れる人々が「地中の庭」を散策することで、自ら庭を造り、そして愛したモネの視線の先にあったものを感じ、自分と自然との関係を感じるきっかけとなるよう祈りを込めています。

庭園面積：1043㎡

植栽植物の種類：草花約150種類、樹木約40種類

Store & Cafe

ストア&カフェ

Chichu Store | 地中ストア

地中ストアは「地中美術館で体感した感覚を、日常生活でも再認識できる商品を提供する場所」をテーマにしたミュージアムショップです。地中美術館の建築やアーティストの関連書籍やグッズのほか、地中美術館限定のオリジナル商品として、ポストカードやステーションナリーも取りそろえています。

Ticket Center Shop | チケットセンターショップ

瀬戸内の地域性を生かした特産品やドリンク類などを販売しています。鑑賞後のご休憩、シャトルバスの待ち時間などにお役立てください。

[利用案内]

営業時間 10:30～17:30 / 3月1日～9月30日
10:30～16:30 / 10月1日～2月末日

Chichu Cafe | 地中カフェ

瀬戸内の美しい風景が一望できるカフェです。解放された空間で改めて自然を感じることができるよう、屋外スペースも設けています。鑑賞体験の最後を締めくくるにふさわしい豊かな時を提供しています。

[利用案内]

営業時間 10:30～17:45 (ラストオーダー17:30) / 3月1日～9月30日
10:30～16:45 (ラストオーダー16:30) / 10月1日～2月末日

定休日 施設に準じます
席数 36席

[問い合わせ]

Tel: 087-892-3755 (地中美術館)

設計・インテリアデザイン: 安藤忠雄

5

Lee Ufan Museum

李禹煥美術館

アート

李 禹煥

建築

安藤忠雄



李禹煥美術館は、1970年前後の「もの派」と呼ばれる日本の現代美術運動の中心的作家であり、世界的評価の高いアーティスト・李 禹煥（リウファン）の初の個人美術館です。

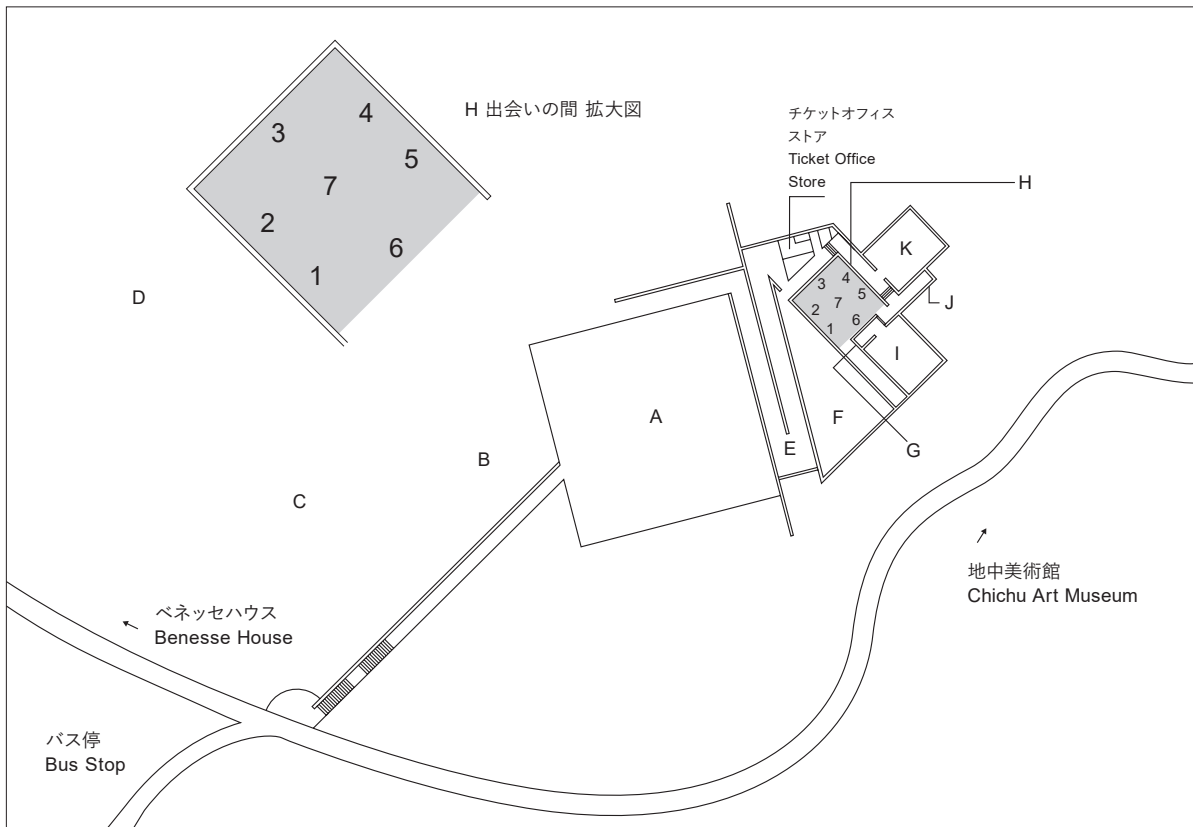
海と山に囲まれたなだらかな谷あい立つこの美術館は、安藤忠雄設計の自然の地形を生かした建物と、正面に建つ氏の柱の作品とが響きあい、縦と横の緊張感を生み出します。また、谷あいから海へとつながる敷地に三角形と矩形を配置した設計プランは、自然と調和した律動的な空間の展開を実現しています。

建物内の代表的な彫刻、絵画の作品を通して静かな瞑想の場を体験することができます。

開館日 2010年6月15日

Art Works

李禹煥美術館 作品紹介



A
柱の広場
「関係項 - 点線面」2010
コンクリート柱、鉄板、自然石

B
「関係項 - 対話」2005/2010
鉄板、自然石

C
「関係項 - 休息または巨人の杖」2013
鉄棒、自然石

D
「無限門」2019
ステンレス、自然石

E
「関係項 - しるし」2008
テラコッタ

F
照応の広場
「関係項 - 合図」2005/2010
鉄板、自然石

G
小間
「対話」2013
油、岩絵具、カンヴァス、22×27cm

H
出会いの間
1. 「点より」1980
膠、岩絵具、カンヴァス、182×227cm
2. 「点より」1976
膠、岩絵具、カンヴァス、227×182cm
3. 「線より」1974
油、岩絵具、カンヴァス、182×227cm
4. 「風と共に」1983
油、岩絵具、カンヴァス、227×182cm
5. 「照応」1992
油、岩絵具、カンヴァス、227×182cm
6. 「対話」2017
アクリル絵具、カンヴァス、218×291cm
7. 「関係項」1968 / 2010
鉄板、ガラス板、自然石

I
沈黙の間
「関係項 - 沈黙」1979/2010
鉄板、自然石

J
影の間
「関係項 - 石の影」2010
自然石、床にアクリル絵具、映像

K
瞑想の間
「対話」2010
壁にアクリル絵具

About Architecture

建築について 建築家：安藤忠雄

アーティスト李禹煥の作品を永久展示する、直島での三番目のミュージアムの計画である。

敷地はベネッセハウスミュージアムから地中美術館へと至る経路のほぼ中央、入江から連続する緩やかな窪地に位置する。

計画の基本とするのは、これまでのプロジェクトでも取り組んできた〈自然の地形と一体化し、風景に溶け込む建築〉という主題であり、今回も執拗にそれを追及している。

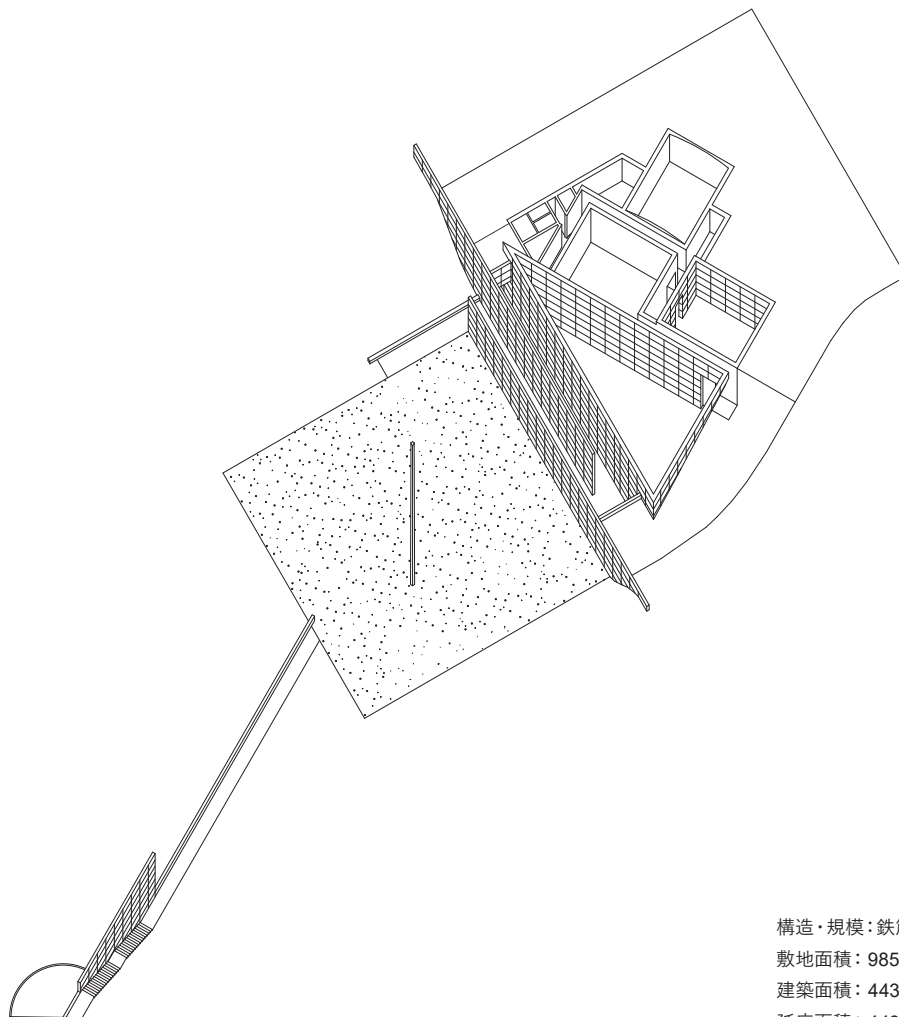
建物は、谷間の奥に埋め込むように配された三つの矩形の室と、その前室の役割を果たす壁で囲われた三角形平面のエントランスコート、その一辺と平行に配された二枚の壁によるアプローチからなる。アプローチの壁の前面は、30m×30mの正方形平面に碎石

の敷き詰められた前庭である。

建物の訪問者は、ゲートから地形に切り込むように延びる直線状の通路を経て、前庭に至る。前庭には、壁の水平線と強いコントラストを描くような、垂直性の強い柱状の彫刻作品が置かれている。そこから、壁に挟まれたスロープを巡り、一旦〈地下〉に入り込んだ後、エントランスコートに出て、三角形に切り取られた空を見上げる。そして再び、〈地下〉のミュージアムへと入り込む。

〈地下〉の三つのアートスペースは、それぞれに異なるスケールと、異なる素材感、異なる光を持つ。全てが、その空間に置かれる作品のために、アーティストとの対話の上で決定されている。

一人のアーティストのための美術館であるがゆえに、より強く、純粹な力に満ちた〈地中の建築〉が出来たように思う。



構造・規模：鉄筋コンクリート造、地下1階
敷地面積：9859.83m²
建築面積：443.04m²
延床面積：443.04m²

Store

ストア

Lee Ufan Museum Store | 李禹煥美術館ストア

李禹煥美術館内に併設するミュージアムショップです。「日常生活の中に李禹煥の作品を取り入れることで、ゆっくり時間をかけて鑑賞体験を深めていく」をテーマに、アーティストに関する書籍とオリジナルグッズを取りそろえています。

6

Naoshima Bath “I♥湯”

直島銭湯「I♥湯」

アート
大竹伸朗

運営：NPO 法人 直島町観光協会



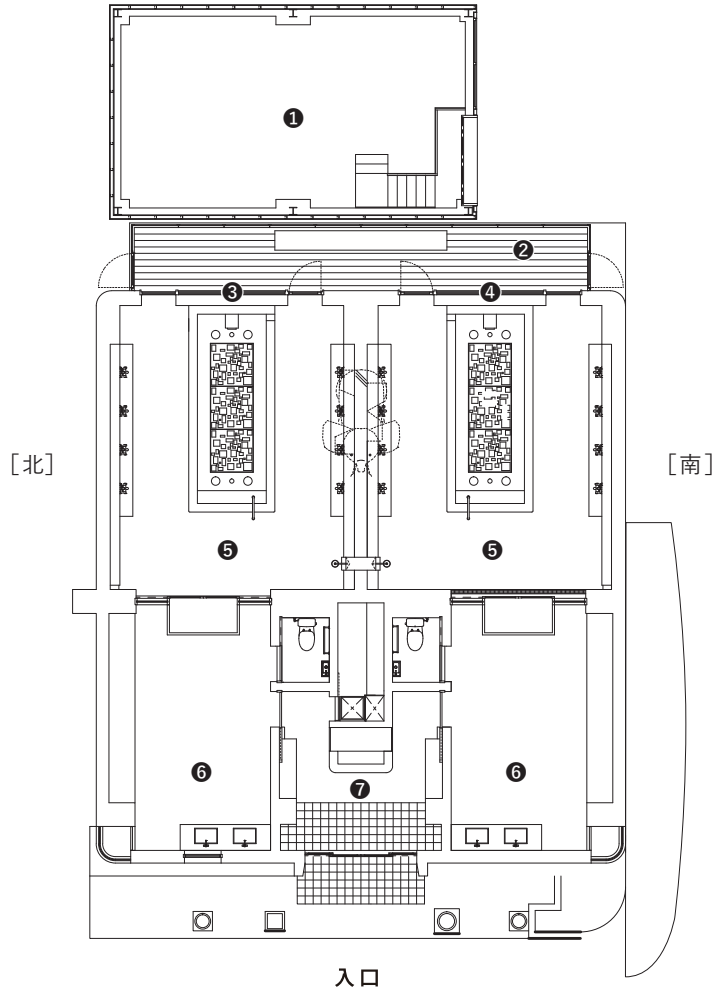
直島銭湯「I♥湯」(アイラヴユ)は、アーティスト・大竹伸朗による実際に入浴できる美術施設です。「飽きがこない」というテーマのもと、外観・内装はもちろん浴槽、風呂絵、モザイク画、トイレの陶器にいたるまで、氏が得意とするスクラップブックの手法が三次元となって余すことなく発揮されています。

このプロジェクトは、これまで直島で取り組んできたアートプロジェクトが島民の方々に支えられてきたことへの感謝の気持ちから始まりました。島民の方々の活力源として、また国内外から訪れるお客様と直島島民との交流の場となっています。

営業開始日 2009年7月26日

Floor plan

直島銭湯「I♥湯」 施設紹介



直島銭湯「I♥湯」は、船のパーツ、秘宝館の象、インドネシア製のタイル、松の植栽などさまざまなオブジェを集めコラージュされています。風呂絵のタイル絵やモザイク画、トイレの陶器に施された絵付けタイルの技法は、作家本人にとって初の試みです。

- ① ボイラー室
- ② 温室
- ③ タイル絵 (北)
「海女景Ⅰ 竜宮珊瑚」(2009)
- ④ タイル絵 (南)
「海女景Ⅱ 大蛸」(2009)
- ⑤ 浴室
- ⑥ 脱衣室
- ⑦ 番台

浴槽	男湯、女湯
浴槽サイズ	幅1.66m × 奥行き4.4m × 深さ0.5m
カラン	男女各8個
シャワー	男女各1個
下駄箱	男女各30個
ロッカー	男女各27個

構造(本体):鉄筋コンクリート造 平屋建
 設備:ペレットボイラー
 ※燃料は環境に配慮し、バイオマス燃料として
 注目されている木質系ペレットを使用しています。

植栽協力:東信、花樹研究所

直島銭湯「I♥湯」番台

入口に入っすぐの番台では、大竹伸朗デザインのオリジナルグッズを取りそろえています。タオル類や湯上がり着にぴったりのオリジナルTシャツなどをご用意しています。

7

ANDO MUSEUM

制作

安藤忠雄



2013年の春、直島の本村地区に新設された安藤忠雄のミュージアム。打ち放しコンクリートの空間が、本村地区に残る築約100年の木造民家の中に新しい命を吹き込んでいます。過去と現在、木とコンクリート、光と闇。対立した要素が重なり合う、小さいながらも安藤忠雄の建築要素が凝縮された空間に、氏のこれまでの活動や直島の歴史を伝える写真、スケッチ、模型を展示しています。新たに生まれ変わった建物と空間そのものが作品となっています。

開館日 2013年3月12日

About Architecture and Works

建築・展示作品について 建築家：安藤忠雄

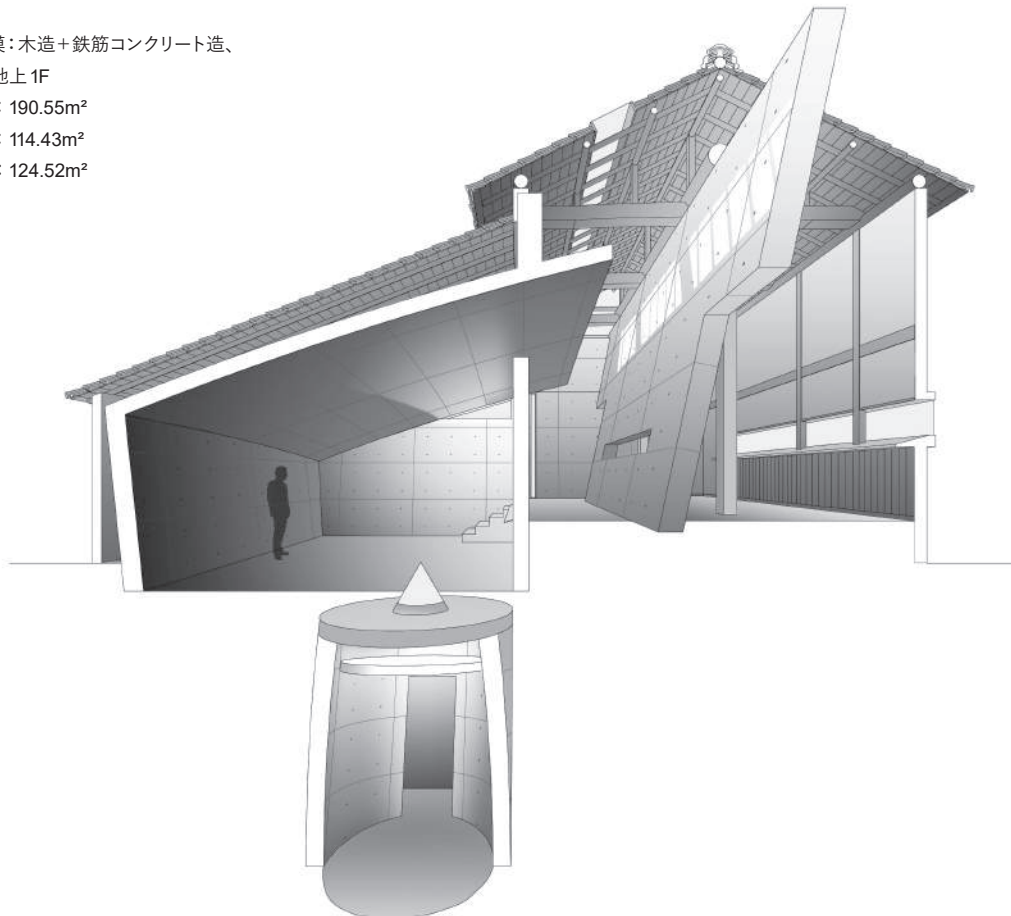
「自身の建築のミュージアム」というプログラムに対し、考えたのは空間体験そのものを主題とする施設である。敷地は「家プロジェクト」が展開されている直島本村地区の一角に位置する。そこには築100年、木造二階建ての、典型的な民家が建っていた。「ANDO MUSEUM」のようなヒューマンスケールの仕事において、常に考えるのは既存の環境に対し、いかに最小限の表現で切り込み、最大限のふくらみを持つ空間をつくれるか、ということだ。最初期の仕事である「住吉の長屋」では、三軒長屋の真ん中をコンクリートのコートハウスで置き換えるという手法で、このテーマに挑んだ。「ANDO MUSEUM」では、それを古民家の内部に、コンクリートのボックスを入れ子状に組み込むという形で試みている。ボックスは緩やかな曲面天井を持つ。母屋の主軸に重なる側の、その一辺の壁は、上部の棟木に向かって傾けられ、ダイナミックな頭上への〈ヌケ〉をつくりだしている。その〈ヌケ〉から、上部

の木造屋根部分に設けられたトップライトからの光が落ちてくる。意図したのは、過去と現代、木とコンクリート、光と闇といった対立する要素が刺激的にぶつかり合いつつ重層する、小さくとも奥行きに富んだ空間だ。

さらにもう一つのエレメントとして、既存建物から自立した位置に、内径2.7mでわずかに傾いたコンクリートのシリンダーを、文字通り地中に埋め込んでいる。頭上から落ちる光の表情が全て——ここは〈瞑想〉のための空間である。

建物を地形、環境と一体化するよう考えてきた、直島でのこれまでのプロジェクト同様、新しい建築要素を既存の民家の中に、あるいは地中に埋め込んだ「ANDO MUSEUM」もまた、目指すところは〈見えない建築〉だ。見えないとき、問われるのは空間の質しかない。訪れた人が、このささやかな建物に私の思う建築のエッセンスを感じ取ってもらえたら、嬉しく思う。

構造・規模：木造+鉄筋コンクリート造、
地下1F、地上1F
敷地面積：190.55m²
建築面積：114.43m²
延床面積：124.52m²



Store

ストア

ANDO MUSEUM Store

安藤忠雄に関する書籍や、オリジナルグッズを販売しています。
安藤忠雄直筆のサインやドローイングの入った商品も取りそろえています。

8

Setouchi “ ” Archive / Miyanoura Gallery 6

瀬戸内「 」資料館／宮浦ギャラリー六区

アート
下道基行



《瀬戸内「 」資料館》は2019年9月より、宮浦ギャラリー六区を拠点に始まったプロジェクトです。アーティスト・下道基行によるこのプロジェクトは瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて調査、収集、展示します。そこに住む人々や関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交えて活動を展開し、島を見つめる新たな視点を提示します。

Art Works

作品介绍 アーティスト：下道基行

《瀬戸内「 」資料館》は2019年9月より、宮浦ギャラリー六区を拠点に始まったプロジェクトです。アーティスト・下道基行によるこのプロジェクトは瀬戸内海地域の景観、風土、民俗、歴史などについて調査、収集、展示します。そこに住む人々や関わりを持つ人々とともに、各分野の専門家も交えて活動を展開し、島を見つめる新たな視点を提示します。

About Architecture

建築について 建築家：西沢大良

宮浦ギャラリー六区は、直島の人々の生活エリアに整備された最初の展示施設です。島の人々に親しまれるよう、長年親しまれてきた旧パチンコ店のファサードはそのままに、本体は全面的に改修し、展示施設として再生しました。また、合わせて隣接する児童公園の一画に芝生の休憩テラスを設け、ギャラリーからの観客出口を公園側に設けることで、鑑賞者と直島子どもたちが一つの空間に共存できるよう、ギャラリーにとっての前庭を兼ねた屋外空間としています。

展示室は、写真やビデオを引き立てる背景となるよう黒色のスペースとし、また、作品を自然光の下で鑑賞できるよう天井には約400本のルーバーを用いています。天井ルーバーから降り注ぐ日差しや光によって内部空間はモノクロームの濃淡を変え、季節や時間の移り変わりとともに異なる作品空間をつくり出します。

宮浦ギャラリー六区は、直島の風景や風の動きを室内側から感じられるギャラリーといえます。

規模・構造：木造、地上1階（平屋建て）

建築面積：97.63m²

延床面積：97.63m²

9

The Naoshima Plan “The Water”

The Naoshima Plan「水」

建築
三分一博志



2011年から直島で取り組んでいる「The Naoshima Plan」は、個々の建築や街区、水路などを通して島全体の風・水・太陽などの「動く素材」を浮き上がらせ、その美しさや大切さ、新たな価値を再認識する試みです。The Naoshima Plan「水」では、建物下部の動く素材、“地下水脈”に着目。建物の一部を改修し、それを顕在化しました。来訪者が水を中心とした「地球内部の動く素材」の価値を再認識できる場所です。

開設日 2019年4月24日

About Architecture

建築について 建築家：三分一博志

直島・本村地区の古い町並みから読み取った、「風」や「水」という動く素材を「リレー」する構造。「動く素材」自体が有する美のみならず、それらを大切に隣接する家に受け渡していくというコミュニティの在り方に美を見出し、旧家の改修を通してその2つの美を浮かび上がらせました。本村地区の家屋の特徴である南北の続き間を顕在化させ、豊富な井戸水を湛える水盤を設置。風の吹き抜ける栈敷で水盤に足をつければ、直島の「動く素材」を目でも肌でも感じることができます。水の価値の再評価と、これからの付き合い方を考える場です。

延べ面積：324.45m²

構造：木造

Regional Activity

地域活動

[直島コメづくりプロジェクト]

ベネッセアートサイト直島では、直島における一連のアートプロジェクトの一環として、直島・積浦地区に広がる休耕田を開墾し、コメづくりに取り組んでいます。直島で無くなりつつあったコメづくりの文化を復活させ、田畑を起点としたコミュニティが再生することを願い、2006年にスタートしました。以来、十数年にわたり、島民の方々とともに、一年を通じて田植えや稲刈り、もちつきなど、コメづくりの文化を体験するイベントも開催しています。

開始時期 2006年4月 ※「スタンダード2」展(2006年10月～2007年4月)の関連企画として発足
活動拠点 香川県直島町積浦
開墾実績 水田4.5反 \approx 4,500 m^2 (積浦田園42反 \approx 42,000 m^2) 2018年4月1日現在
米の種類 ヒノヒカリ(うるち米)、モチミノリ(もち米)

Facility Information

鑑賞のご案内

・ベネッセハウス ミュージアム

[利用案内]

開館時間 8:00～21:00 (最終入館20:00)

休館日 年中無休

鑑賞料 大人1,300円 (15歳以下無料)

※ベネッセハウスにご宿泊のお客様は無料

※ヴァレーギャラリーを含む

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町琴弾地

Tel: 087-892-3223

〈予約の必要な作品〉

蔡國強「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」

「文化大混浴 直島のためのプロジェクト」は、風水の考えにもとづいて中国産の太湖石とアメリカ製のジャグジーバスが配置され、実際に入浴することができる作品です。また、ジャグジーバスには5種類の漢方薬が入っています。

※ベネッセハウスにご宿泊の方に限り、入浴を体験できます。

[利用案内]

体験日 3月～10月 日曜日

体験時間 16:00～17:00 (各1回のみ)

※開始時間までに「文化大混浴」現地にお集まりください。

体験料金 1名あたり1,000円+1グループ(6名まで)につき5,000円

定員 6名まで

ご予約 087-892-3223

<https://benesse-artsite.jp/contact/bunk1adaikonkyoku2020.html>

・ヴァレーギャラリー

[利用案内]

開館時間 9:30～16:00 (最終入館15:30)

休館日 年中無休

鑑賞料 ベネッセハウス ミュージアムの入館料に含む

(ヴァレーギャラリー現地でも同チケットを購入可能)

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町琴弾地 Tel: 087-892-3223

・杉本博司ギャラリー 時の回廊

[利用案内]

開館時間 11:00～15:00 (最終入館14:00)

休館日 年中無休

鑑賞料 1,500円

※呈茶(お茶とお菓子)付き

※15歳以下の方とベネッセハウスにご宿泊のお客様は鑑賞無料。呈茶(別途有料)をご希望の場合は開館中にラウンジにてお尋ねください。

※オンラインによる事前予約制(ベネッセハウスにご宿泊のお客様は予約不要)

・家プロジェクト

[利用案内]

「きんざ」以外の6軒の家プロジェクト

開館時間 10:00～16:30 (「南寺」最終入館16:15)

休館日 月曜日(月曜が祝日の場合は開館、翌日休館)

鑑賞料金 共通チケット1,050円(15歳以下無料)

※「きんざ」を除く6軒の鑑賞可能。

ワンサイトチケット420円(15歳以下無料)

※「きんざ」を除く6軒のうち、1軒のみ鑑賞可能。

※護王神社の本殿と拝殿、八幡神社 随神門につきましては、いつでもどなたでも自由にご鑑賞、ご参拝いただけます。

〈予約の必要な作品〉

「きんざ」

開館時間 10:30～13:00/14:30～16:30 (3月1日～9月30日)

10:00～13:00/14:30～16:00 (10月1日～2月末日)

休館日 月曜日～水曜日(祝日を除く)

鑑賞料金 520円(他の家プロジェクトの鑑賞料金とは別です)

鑑賞方法 お一人様ごとに入館し、15分間までご鑑賞いただけます。

ご予約 ベネッセアートサイト直島のHPをご確認ください。

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町本村地区

Tel: 087-892-3223 (ベネッセハウス)

本村ラウンジ&アーカイブ Tel: 087-840-8273

・地中美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～18:00

(入館は17:00まで) 3月1日～9月30日

10:00～17:00

(入館は16:00まで) 10月1日～2月末日

休館日 毎週月曜日(祝日の場合開館、翌日休館)

鑑賞料 オンライン 2,500円(平日) / 2,700円(土日祝)

窓口 2,800円(平日) / 3,000円(土日祝)

(15歳以下無料)

※事前予約推奨

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町3449-1 Tel: 087-892-3755

・直島銭湯「I♥湯」

[利用案内]

開館時間 13:00～21:00 (入浴は20:30まで)

休館日 地中美術館と同様

入浴料 660円(直島島民は320円) 15歳以下310円

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町2252-2 Tel: 087-892-2626 (直島町観光協会)

・李禹煥美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～18:00
(入館は17:30まで) 3月1日～9月30日
10:00～17:00
(入館は16:30まで) 10月1日～2月末日
休館日 地中美術館と同様
鑑賞料 オンライン 1,200円 / 窓口 1,400円
(15歳以下無料)

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町字倉浦 1390 Tel: 087-892-3754 (福武財団)

・ ANDO MUSEUM

[利用案内]

開館時間 10:00～13:00 / 14:00～16:30 (最終入館 16:00)
休館日 月曜日 (月曜が祝日の場合は開館、翌日休館)
鑑賞料 オンライン 600円 / 窓口 700円 (15歳以下無料)

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町 736-2 Tel: 087-892-3754 (福武財団)

・瀬戸内「 」資料館 / 宮浦ギャラリー六区

[利用案内]

開館時間 ※企画展により異なります。
休館日 随時 WEB サイトにてご案内します。
鑑賞料

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町 2310-77 Tel: 087-892-3754 (福武財団)

・ The Naoshima Plan 「水」

[利用案内]

開館時間 ※時期により異なります。
休館日 随時 WEB サイトにてご案内します。
鑑賞料 無料

[所在地・お問い合わせ]

香川県香川郡直島町本村 707
Tel: 087-892-3754 (福武財団)

Teshima

豊島

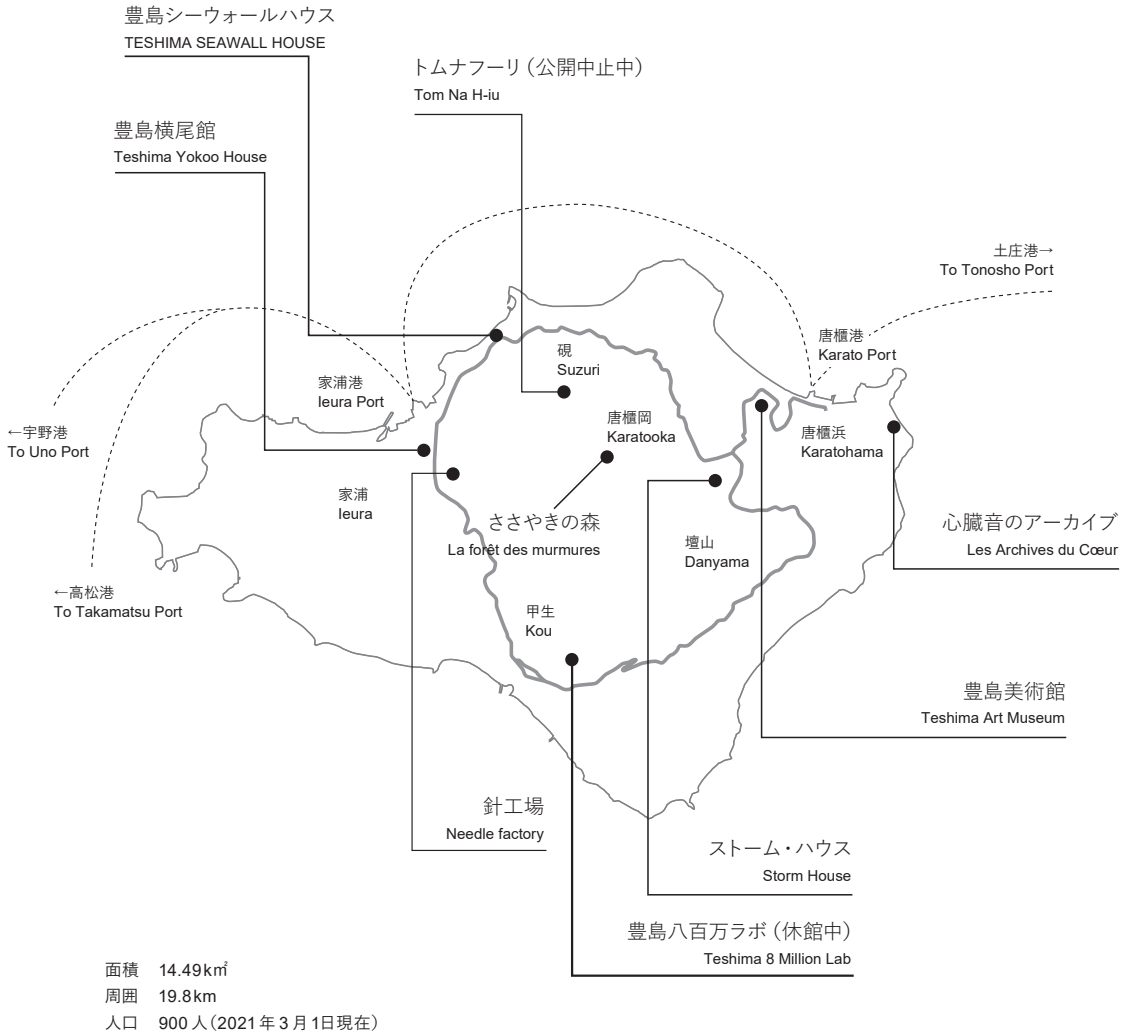
2024 10.1

Benesse
Art Site
Naoshima

Map & About Teshima

周辺地図 & 豊島について

4 豊島地図 Teshima Map



豊島は、香川県小豆郡土庄町に属し、高松からフェリーで30分ほどの瀬戸内海東部、直島と小豆島の間位置しています。中央の壇山にスダジイ、クヌギなどの原生林が広がるとともに、「唐櫃の清水」と呼ばれる豊かな湧水を擁し、古くから稲作をはじめとした農産業や漁業、酪農が盛んで、文字通り「食の豊かな島」として栄えていました。そのほか豊島石による石材業も盛んでしたが、産業構造の変化や過疎・高齢化により、これらの第一次産業は衰退の途をたどっています。島の人口も、戦前は2,700人程度を維持していたものの、現在では約900人にまで減少しています。1970年代から始まった産業廃棄物の不法投棄は、全国的にも最大規模の産廃問題となりましたが、現在では廃棄物の処理もすすみ、環境の再生を目指した取り組みが続いています。また、戦前の社会運動家・賀川豊彦により設立された乳児院や特別養護老人ホームなど、福祉施設が充実しており、「福祉の島」としても知られています。

1

Teshima Art Museum

豊島美術館

アート

内藤 礼

建築

西沢立衛



アーティスト・内藤礼と建築家・西沢立衛による豊島美術館は、瀬戸内海を望む豊島唐櫃（からと）の小高い丘に建設されました。

一滴の水が地上に最初に落ちた瞬間のような形の建物は、地元住民とともに再生した棚田の一角に据えられています。空間に柱が1本もないコンクリート・シェル構造で、天井にある2カ所の開口部から周囲の風、音、光を内部に直接取り込み、自然と建物が呼応する有機的な空間が広がります。内部空間では、一日を通して「泉」が誕生します。自然、アート、建築が限りなく融和したその風景は、季節の移り変わりや時間の流れとともに無限の表情を伝えます。

開館日 2010年10月17日

Art Work

作品介绍 アーティスト：内藤 礼

空間というのは、そういうふうに、
そのものとして自然なものに戻っていくように生まれてくるのだろう

内藤 礼「母型」(2010)

材料：地下水、コンクリート、石、リボン、糸、ビーズ

空間サイズ：40m×60m×4.5m

内藤は「母型」を、「この世界の根底にある自然と地上の生との連続性」と捉えます。それは、つねにわたしたちのそばにあり、そこからあらゆるものが生まれ、育まれる、地上の生を可能にする何かです。

豊島美術館の「母型」は、一日を通して、いたるところから水が湧き出す「泉」です。ふたつの開口部からの光や風、鳥の声、時には雨や雪や虫たちとも連なり、響き合い、たえず無限の表情をわたしたちに伝えます。

湧き出た水は、流れ、止まり、集まり、自由に動きながら少しずつ泉となり、その泉もまた呼吸するように、時には水を引きながら成長します。変化し続ける水の動きや開口部に揺れるリボンに気づき、自然を感じた時、人はさらに揺らめく細い糸、きらめくビーズの存在に気づかされます。

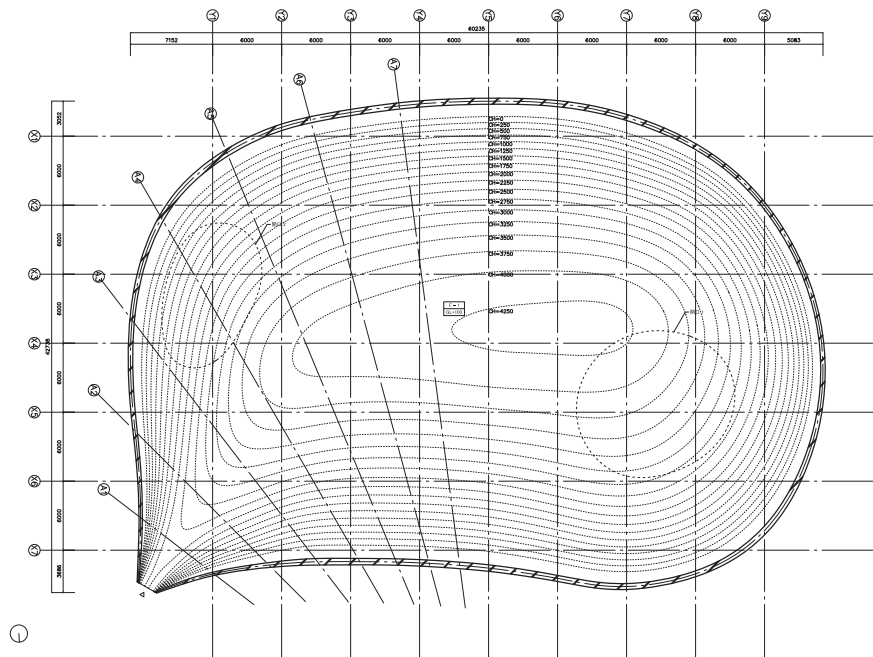
静かに空間に身を置き、自然との融和を感じたとき、私たちは地上の生の喜びを感じることでしょう。

Architecture & Landscape

建築 & ランドスケープ 建築家：西沢立衛

一滴の水が地上に最初に落ちた瞬間のような形を想起させる豊島美術館は、建築家・西沢立衛により設計されました。広さ40×60m、最高高さ4.5mの背の低いコンクリート・シェル構造の建物には柱が1本もなく、2つの開口部からは周辺の自然をダイレクトに取り込み、水平方向に広がる有機的なワンルームをつくり出します。

ランドスケープは、美術館の周辺に広がる棚田の直線的なイメージと、自然の地形がもつ自由曲線のイメージから、敷地内の植栽は全て豊島内に自生する雑草群で構成されています。そのことにより、棚田の風景や自然につながる唐櫃という環境の一部として存在し、美術館へとつながる遊歩道を巡ることで、土地が持つ美しい風景と歴史を感じることができます。



豊島美術館 メイン棟平面図
Courtesy: Office of Ryue Nishizawa

構造：鉄筋コンクリート造（躯体厚25cm）

敷地面積：9959.59m²

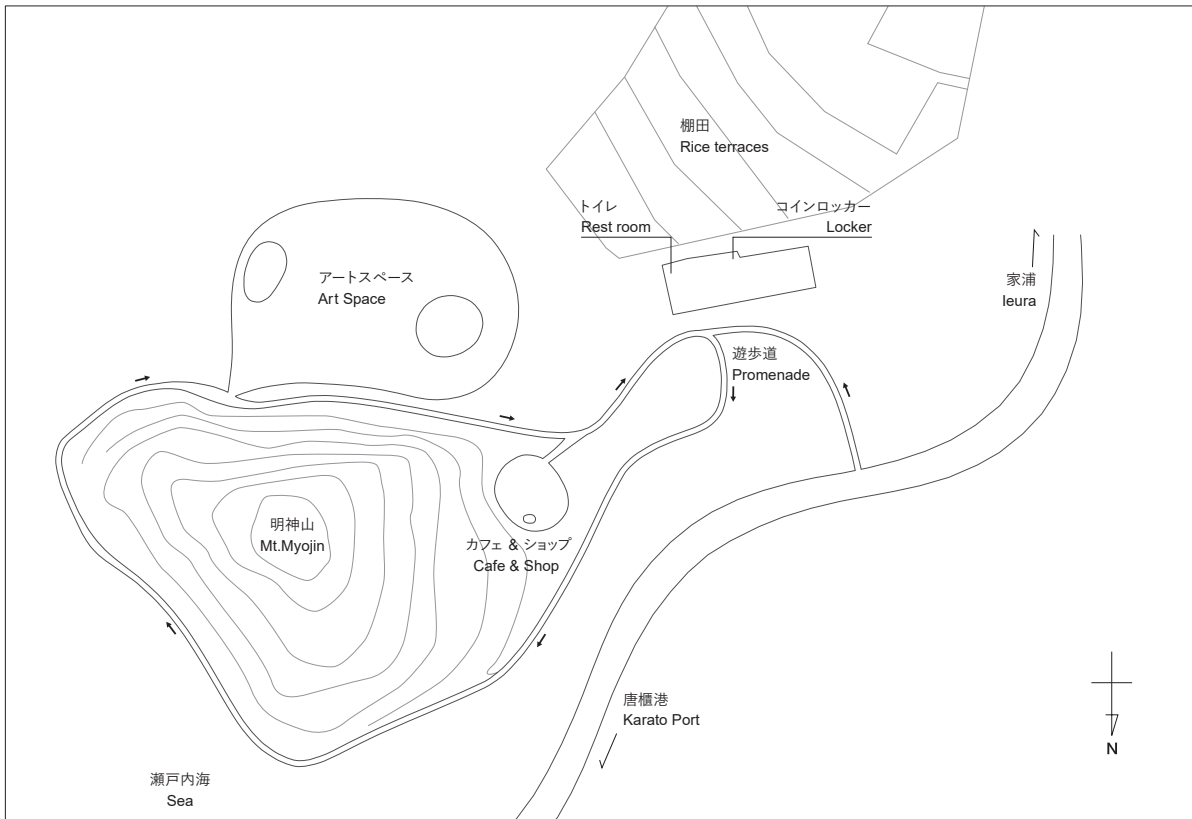
建築面積：2155.45m²

延床面積：2334.73m²

チケットセンター、カフェ&ショップ、歩道、家具デザイン 西沢立衛

Map

敷地内地図



※豊島は瀬戸内の少雨地域にあり、既存の公共水道への負担を考慮し、美術館で使用する水は敷地内に約180m掘削した井戸水を水源としています。

Cafe & Shop | カフェ & ショップ

建築家・西沢立衛が空間をデザインした豊島美術館に隣接するカフェ&ショップスペース。カフェでは豊島産の果物を使ったドリンクやデザート、周辺の棚田でとれたお米を使用した軽食をご用意しています。

ショップでは、豊島美術館の書籍やオリジナルグッズ、アーティスト・内藤礼や建築家・西沢立衛に関する書籍、地元豊島や瀬戸内で採れたものを使った食品などを多数取りそろえています。

※豊島は豊富な湧水と食材に恵まれた島です。豊島美術館カフェでも豊島の水を大切に利用しています。

[Cafe 利用案内]

営業時間 10:00～17:00 (ラストオーダー 16:30) / 3月1日～10月31日

10:00～16:00 (ラストオーダー 15:30) / 11月1日～2月末日

休館日 施設に準じます

2

Les Archives du Cœur

心臓音のアーカイブ

アート

クリスチャン・ボルタンスキー



フランスを代表するアーティスト、クリスチャン・ボルタンスキーは、「一人一人の人間存在に固有性はあるが、死とともに消滅し、やがて忘れられてしまう」という生と死の対照性と、個々の固有性と記憶のはかなさをテーマに、人々が生きた証として心臓音を収集するプロジェクトを2008年より展開しています。

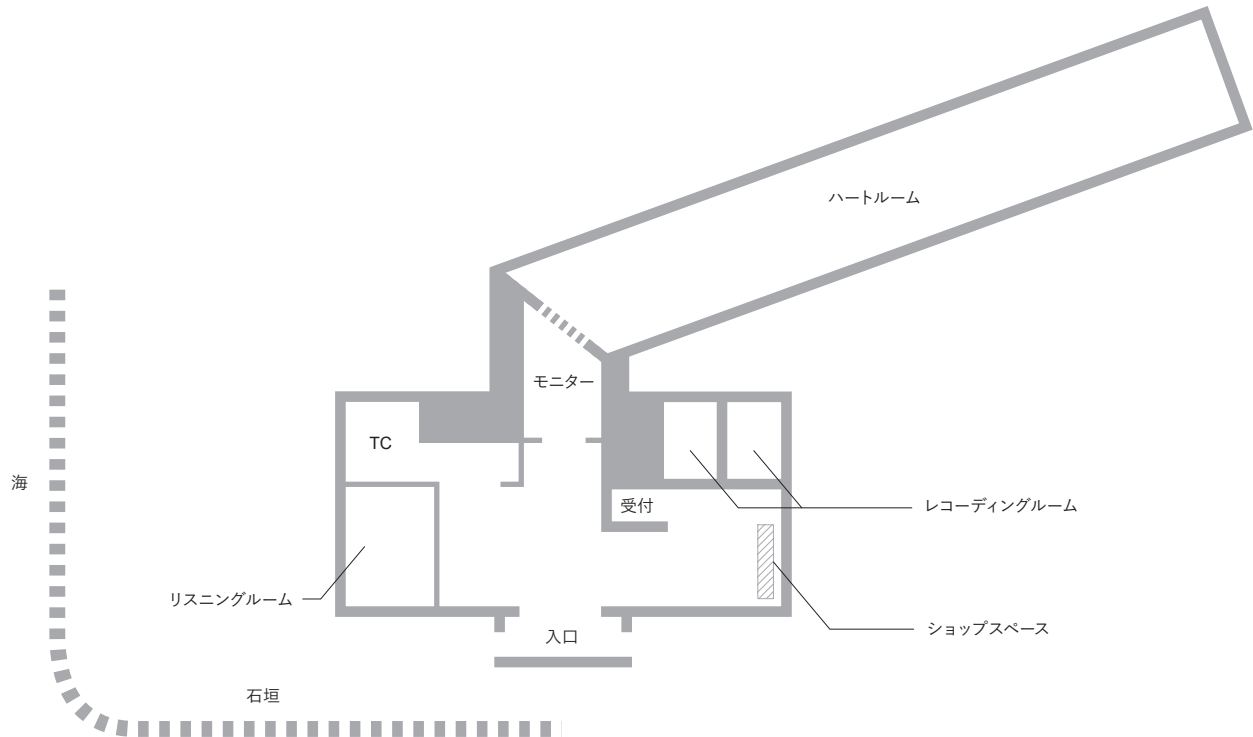
豊島の王子ヶ浜の海辺に面した境内の一角にひっそりと建つ「心臓音のアーカイブ (Les Archives du Cœur)」は、これまで氏が集めた世界中の人々の心臓音を収集・保存し、聴くことができる小さな美術館です。

アーカイブされた大切な人の心臓音を聴きに行くため、遠く海を越え時間をかけてこの地を訪れる——そうした行程は大切な人を思い出し、人の存在や生命に思いをはせることにつながる、重要な要素です。

開館日 2010年7月19日

Art Works

作品介绍 アーティスト：クリスチャン・ボルタンスキー



「心臓音のアーカイブ」は、心臓の音に連動して電球が明滅するインスタレーションのある「ハートルーム」、希望者の心臓音を採録する「レコーディングルーム」、世界中から集められた心臓音をパソコンで検索し聴くことができる「リスニングルーム」の3つの部屋で構成されています。採録された心臓音はご自身のメッセージとともにアーカイブのデータベースに登録され、作品の一部となります。

収録した心臓音は、CDブックレットにしてお持ち帰りいただけます。
(心臓音の登録料：別途1,570円必要／ブックレット付)

構造：鉄筋造り平屋建て

敷地面積：1,280m²

建築面積：145m²

延床面積：138m²

アート、建築設計 クリスチャン・ボルタンスキー

Shop | ショップ

「心臓音のアーカイブ」内にあるショップスペース。アーティスト クリスチャン・ボルタンスキーに関する書籍とロゴ・デザインをあしらったオリジナルグッズを販売しています。

3

Teshima Yokoo House

豊島横尾館

コンセプト／アートワーク

横尾 忠則

建築

永山 祐子

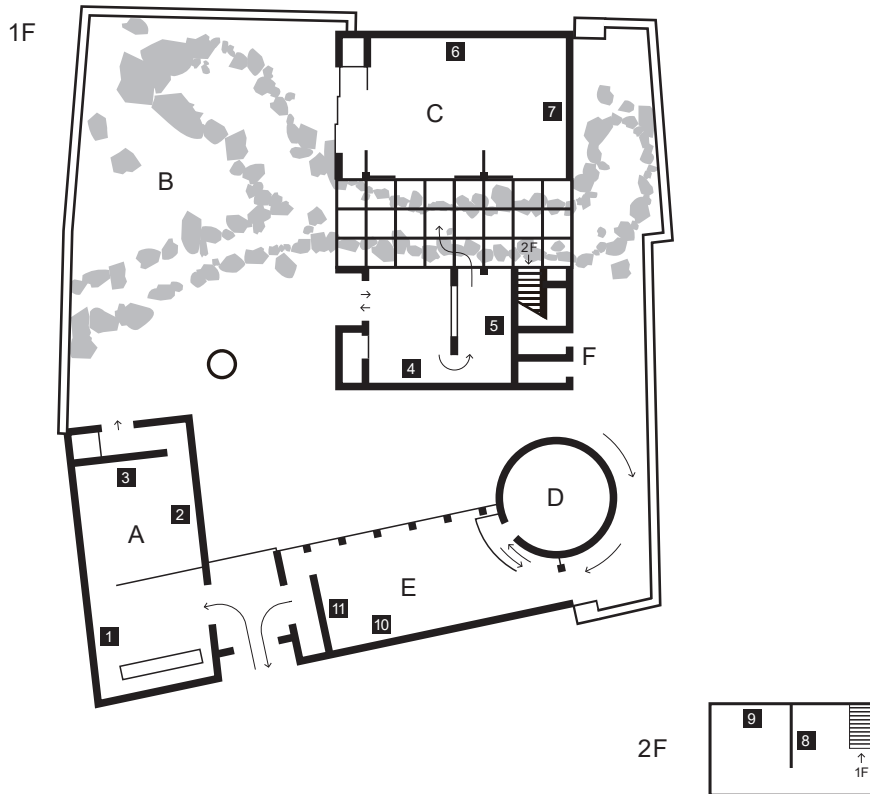


アーティスト・横尾忠則と、建築家・永山祐子による「豊島横尾館」は、豊島の玄関口となる港に面した家浦地区の集落にある古い民家を改修してつくられました。展示空間は、既存の建物の配置を生かして「母屋」「倉」「納屋」で構成され、平面作品11点を展示しています。また、庭、円塔、さらにはトイレに至るまで横尾忠則のインスタレーションが展開され、作品空間は敷地全域にシンボリックな拡がりを見せます。その空間は、“生と死”を同時に想起させる哲学的な場となり、さらに、建物には光や色をコントロールする色ガラスを用いて、豊島の光や風や色、作品の見え方をさまざまに変容させて、空間体験をコラージュのようにつなげます。

開館日 2013年7月20日

Art Works

作品介绍 アーティスト：横尾忠則



A
倉

1. 「天ニアルモノヲ見ヨ」1996
アクリル、カンヴァス、
193.9×193.9cm
2. 「死の島」2012
アクリル、カンヴァス、
130.7×97cm
3. 「Aurora」1983
合成樹脂塗料、電飾、板
235×148.5×11.9cm

B
庭のインスタレーション

C
母屋

4. 「望郷の湯」2004-2008
油彩、カンヴァス、227.3×181.8cm
5. 「死の島 ベルックリンに基づく II」2012
アクリル、カンヴァス、60.6×72.7cm
6. 「原始宇宙」2000
アクリル、コラージュ、カンヴァス、227.3×546cm
7. 「宇宙的狂気愛」1991
アクリル、カンヴァス、181.7×227.3cm
8. 「網膜が見た夢 II」1994
テクナレーション、70×70cm
9. 「紫の胎動」1994
アクリル、ボタン、カンヴァス、193.9×193.9cm

D
滝のインスタレーション

10. 「葬の館」2012
油彩、合成樹脂塗料、カンヴァス、
193.9×258.9cm
11. 「メランコリア」2012
アクリル、カンヴァス、
130.3×162.1cm

F
トイレのインスタレーション

About Architecture

建築について 建築家：永山祐子

豊島横尾館は、築約 100 年とされる三棟からなる古民家のリノベーションと、増設された高さ 14 メートルの円塔から成ります。

設計にあたり、永山祐子は、赤いガラスを用いることで、三次元である建築表現に絵画的な表現を加味し、館の主要テーマである「生と死」を表現しようと考えました。

“赤”は横尾作品にも多く用いられる色であり、生命を象徴する血液の色でもあります。赤いガラスを隔てた向こう側の景色は、隣り合う“日常と非日常”、“生と死”の境界であるかのように、モノクロームの風景として見えます。

「母屋」では天井には黒ガラス、床には透明ガラスなどが用いられ、(内部には)自然光が降り注ぎます。光とガラスの反射によって生まれる様々な情景が作品空間にコラージュされ、その時々々の風景をつくりだします。

構造・規模：木造＋一部鉄筋コンクリート造、2階建て

敷地面積：445.55m²

建築面積：184.88m²

延床面積：179.65m²

4

Needle factory

針工場

アート
大竹伸朗



豊島の家浦岡集落にて、平成を迎える手前で閉じられたメリヤス針の製造工場跡。そこに設置されたのは、宇和島の造船所にて一度も本来の役目を果たすことなく約30年間放置されていた、鯛網漁船の船体用の木型です。

別々の記憶を背負った2つの存在が、アーティストを通して重ね合わせられ、新たな磁場となって作品空間を形成しています。

開館日 2016年3月26日

Art Works

作品介绍 アーティスト：大竹伸朗

「宇和島で使われずに残っていた船型と、豊島の針工場が、見事なぐらいサイズが合っている、こんなコラージュはない。このサイズ、高さでお互いが合体する。それだけでいい。余計なことをしないのが」

「空っぽの針工場に木型がぼんとあるだけで俺っぽいと思う。究極のコラージュっていうか」

「(新たに立ち上がる場には)強い生命力が絶対ある。巨大な生き物みたいなイメージになると思う」

2015年3月15日 大竹伸朗の言葉より

素材： 鉄骨、ネオン管、LED、木堀、玉砂利(白)、足場板、台車、船廃材、屑鉄、廃ゴム、タイル

サイズ： 針工場跡建屋 奥行24m × 幅12m × 高さ5m

木造船形 長さ17.5m × 幅3.7m × 高さ2.6m

昭和の終わりに閉鎖されたメリヤス針の製造工場跡。そこに、宇和島の造船所で一度も本来の役目を果たすことなく、約30年間放置されていた鯛網漁船の船体用の木型が設置されています。壁面と屋根の波型スレートを取り外して骨組みだけとなった工場と、解体されずにそのままの姿で宇和島から海を渡り、豊島の人々に迎えられて曳かれ建屋に入った全長17メートルの木型、別々の記憶を背負った2つの存在がコラージュされることで、新たな磁場が生み出されました。

5

La forêt des murmures

ささやきの森

アートワーク

クリスチャン・ボルタンスキー



豊島・檀山の中腹にあたる森林の中、400個の風鈴が風に揺れ動き、静かな音を奏でるインスタレーション。風鈴の短冊には、これまでに訪れた方の大切な人の名前が記されています。風になびく音は魂の神秘性を思わせ、無名の個人を記憶に留め、人間存在の強さや儚さを表現します。

鑑賞者は、新たに自分の大切な人の名前を残すことができます。後日、名前は書かれた文字のまま短冊(プレート)に刻まれ、作品の一部となって風に揺れ動き始めます。

開館日 2016年7月18日

Art Work

作品介绍 アートワーク：クリスチャン・ボルタンスキー

豊島における私の二つ目のインスタレーションのため、集落から離れたところに、風鈴の音で満ちた森の中へ迷い込むような場所をつくりたいと思った。長い棒の先につけられた風鈴は、森の中に置かれ、風に音を響かせ、不思議な世界にいるような印象を与える。それぞれの風鈴には、大切な人の名前が書かれた透明な短冊がつけられている。風が吹くたび、その大切な人、ときには亡くなった人の名前が思い出される。訪れた人は、希望があればその風鈴の短冊に、大切な人の名前を残すことができる。

この作品は終わりのない作品であり、いつかこの森が風鈴の音で満たされることを願っている。そしてやがてこの場所は、私の名前が忘れ去られたあとも、人びとが大切な人を敬うために訪れる巡礼の地になるかもしれない。

クリスチャン・ボルタンスキー

6

TESHIMA SEAWALL HOUSE

豊島シーウォールハウス

アートワーク

アンリ・サラ



海沿いの古い家屋の中に、ドラムやオルゴールなどの楽器、サクソや尺八演奏を用いた映像、サウンド作品が配され、それらが響き合うことで、まるで家そのものがひとつの身体のように感じられます。廃屋となっていた建物は息を吹き返し、外と内、西洋と東洋、異なる楽器、海と空、人工と自然、社会的な領域と私的な領域といった「二つの異なる世界の出会い」を体感するとともに、「移動」や「人間の生」について深い思索を促します。

(キュレーション：三木あき子)

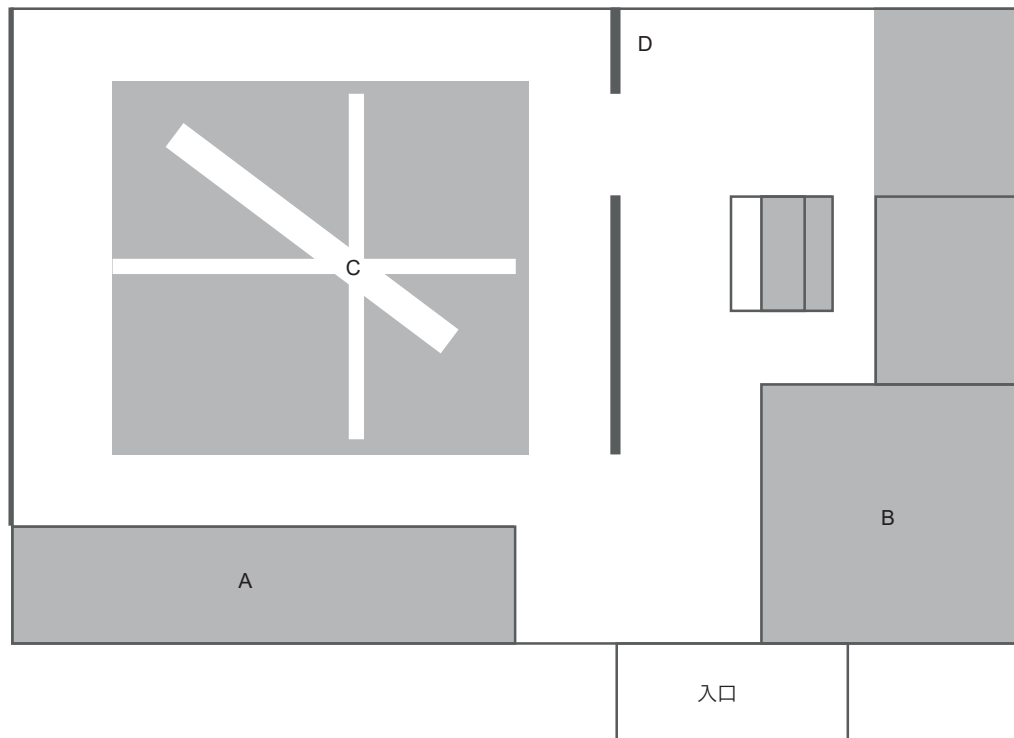
開館日 2016年10月8日

Art Works

作品介绍 アーティスト：アンリ・サラ

第10回ベネッセ賞受賞作家であるアンリ・サラは、2013年の受賞から3年かけて豊島での展示を構想してきました。今回の展示は「オール・オブ・ア・トレンブル」と題され、家屋全体を使ったインスタレーション作品が展開されます。

※ベネッセ賞：次代を担うアーティスト支援を目的に、ヴェネチア・ビエンナーレ参加作家を対象に審査、授与。アンリ・サラは2013年受賞。



A
「オール・オブ・ア・トレンブル（海の壁）」2016
オルゴール、サウンドシステム、土壁

B
「ドルドラム（停滞）の狭間—バックマン」2016
ドラム、スティック、スピーカー、サウンドシステム

C
「より長い嘆き（フィルム「長い嘆き」に併せたジャメル・ムンドックのサククス、アンドレ・ヴィダのサククス、小濱明人の尺八演奏）」2016
ビデオインスタレーション

D
「無題（La Marbrée, La Prycka, La Branchiale, Le Planer / 豊島、直島、犬島）」2016
インク、紙に着色

※A,B,Cの3作品合わせて20分のプログラムです。

7

Teshima 8 Million Lab

豊島八百万ラボ

建築

成瀬 友梨

猪熊 純



豊島の南西、海辺に位置する甲生地区につくられた「豊島八百万(やおよろず)ラボ」。

都市から離れた、豊かな自然に恵まれた場での体験は、科学の進歩と共に歩む私たちの未来に、新たな視点を提示していく機会となっていくでしょう。

(キュレーション:長谷川祐子)

開館日 2016年3月20日

※現在、休館中

About Architecture

建築について 建築家：成瀬 友梨・猪熊 純

築 60 年以上経つ古民家の外観を残しながら、内部の木軸を数本の鉄骨梁で浮かせることで生まれた、広々とした無柱空間。そこは、ラボの名の通り、研究室のような設えとなり、変化に応じて多様な展開を促します。施設へのアプローチには鳥居を並べ、豊島の中央にそびえる檀山に向かって開かれた場所には絵馬掛けを配置。敷地内は様々な価値やコンテキストが混ざり合い、集落の中で周囲と変わらぬ佇まいを保ちながらも、微かな違和感を放ちます。

Regional Activity

関連プロジェクト

[棚田プロジェクト]

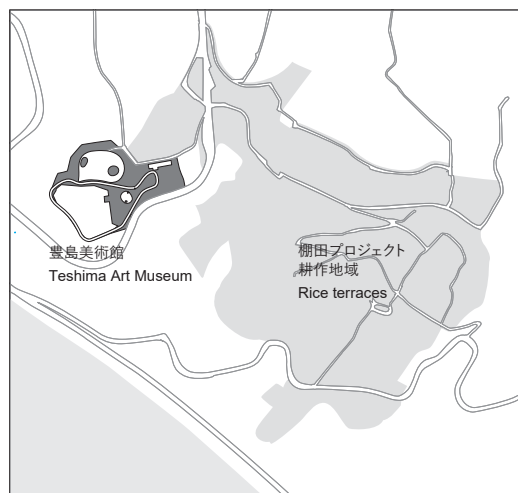
豊島はかつて米や野菜の生産が盛んで、その名の通り豊かな土壌と水に恵まれ、さまざまな食材を提供していましたが、日本の高度経済成長に伴い稲作や農業などの第一次産業は衰退— 8ヘクタールの棚田の耕作面積は1/10までになりました。

そうしたことから、豊島の人々が行政と一緒に、かつての食の豊かさを取り戻そうと、2009年4月、瀬戸内国際芸術祭の開催を契機に豊島「食プロジェクト」推進協議会を発足させました。当財団はその一環として、土庄町からとと唐櫃棚田保存会と協働で、美術館の周辺に広がる休耕田の整備を「棚田プロジェクト」としてスタートさせました。

豊島美術館の周辺では今、秋には稲穂が実り、日本の原風景ともいえる美しい棚田の景色が広がります。今後は、田圃や畑で採れたお米や果物などの食材を使い、地域のレストランやカフェなどとの連動企画や、棚田と美術館とをつなぐ協働企画などを進め、豊島の食とアートの魅力を世界に発信していきたいと考えています。また、こうした活動が地域の活性化につながることを願っています。

- 2009年4月 棚田プロジェクト発足
- 2009年7月 8haの棚田のうち、6.2haの休耕田の開墾作業開始
- 2010年3月 6.2haの開墾作業終了
- 2010年4月 1.4haの田圃、畑づくり、4.2haの棚田の維持管理を開始
- 2011年12月 保全地区(3.2ha)の管理のため、実験的にヤギ2匹の放牧を開始

棚田のコメの種類：ヒノヒカリ（一部コシヒカリ）



Facility Information

鑑賞のご案内

・豊島美術館

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで) 3月1日～9月30日
10:00～16:00 (入館は15:30まで) 10月1日～2月末日

休館日 火曜日(3月1日～11月30日まで)
火曜日～木曜日(12月1日～2月末日)
※ただし祝日の場合は開館、翌日休館。
月曜日が祝日の場合は、火曜日開館、翌水曜日休館。

鑑賞料 オンライン 1,800円 / 窓口 2,000円 (15歳以下無料)
※事前予約推奨

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃607
Tel: 0879-68-3555

・豊島横尾館

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30) 3月1日～9月30日
10:00～16:00 (最終入館15:30) 10月1日～2月末日

休館日 火曜日(3月1日～11月30日まで)
火曜日～木曜日((12月1日～2月末日)
※ただし祝日の場合は開館、翌日休館。
月曜日が祝日の場合は、火曜日開館、翌水曜日休館。

鑑賞料 オンライン 600円 / 窓口 700円 (15歳以下無料)

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦2359
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

・心臓音のアーカイブ

[利用案内]

開館時間 10:00～17:00 (最終入館16:30) 3月1日～9月30日
10:00～16:00 (最終入館15:30) 10月1日～2月末日

休館日 火曜日(3月1日～11月30日まで)
火曜日～木曜日((12月1日～2月末日)
※ただし祝日の場合は開館、翌日休館。
月曜日が祝日の場合は火曜日開館、翌水曜日休館。

鑑賞料 オンライン 600円 / 窓口 700円 (15歳以下無料)

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃2801-1
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

・豊島八百万ラボ

現在、休館中

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4663 香川県小豆郡土庄町豊島甲生908
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

・ささやきの森

[利用案内]

開館時間 10:30～16:30

休館日 ベネッセアートサイト直島公式ホームページの
開館カレンダーをご参照ください。

鑑賞料金 鑑賞料 無料
登録料 5,000円

新たに短冊にご自身の大切な方のお名前を登録する料金です。後日、お名前は書かれた文字のまま短冊(プレート)に刻まれます。登録は、心臓音のアーカイブにて受け付けています。登録当日は、登録証をお持ち帰りいただけます。

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4662 香川県小豆郡土庄町豊島唐櫃1771
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

・針工場

[利用案内]

開館時間 10:30～16:30

休館日 ベネッセアートサイト直島公式ホームページの
開館カレンダーをご参照ください。

鑑賞料 520円 (15歳以下無料)

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦字中村1841-2
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

・トムナフーリ

現在、公開中止中

[所在地・お問い合わせ]

〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦字虻37
Tel: 0879-68-3555 (豊島美術館)

Inujima

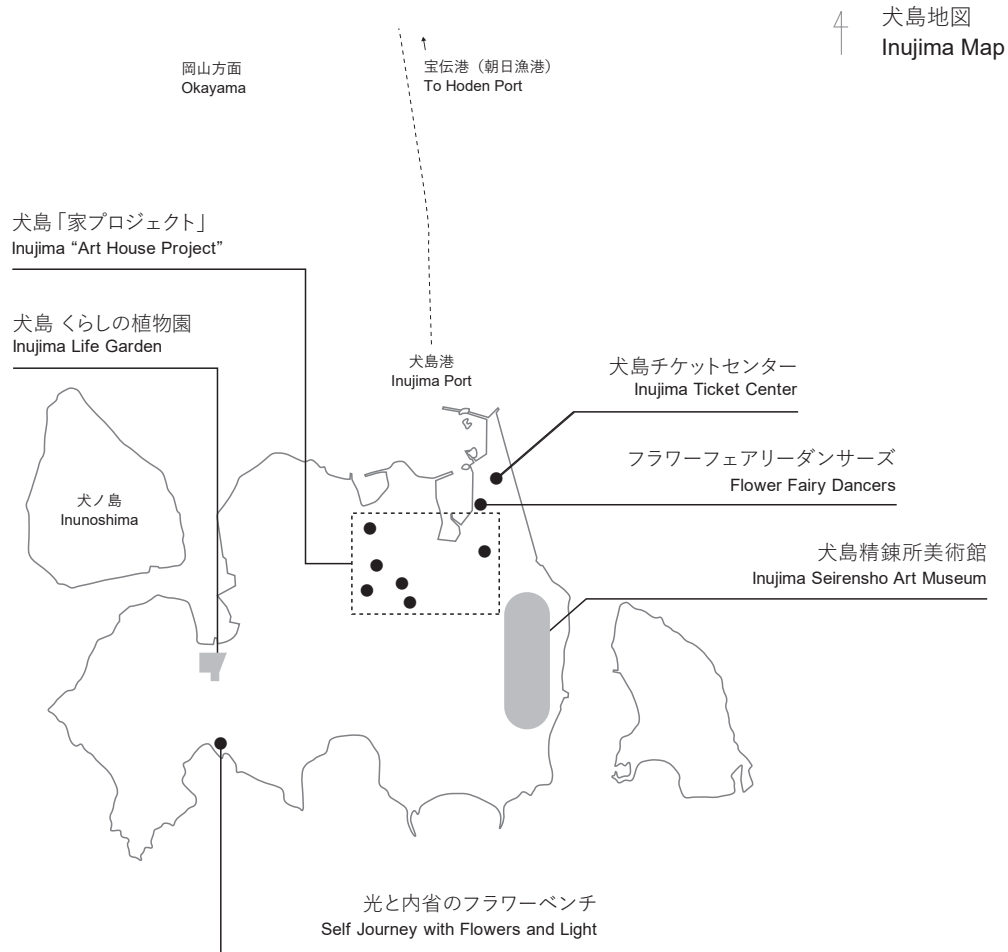
犬島

2024 10.1

Benesse
Art Site
Naoshima

Map & About Inujima

周辺地図 & 犬島について



面積 0.54km²
 周囲 3.6km
 人口 36人(2020年現在)

犬島は、岡山市唯一の有人島です。岡山市の南東部・宝伝港から南に約2.5km、定期船で10分ほどの瀬戸内海国立公園内に位置しています。犬島諸島の一つ「犬ノ島」には、うずくまった犬の形に似た巨石「犬石様」があり、犬島の名の由来となっています。

犬島は良質な花崗岩（犬島石）の産出で知られ、古くは江戸城、大阪城、岡山城の石垣、明治以降では大阪港礎石の切り出し場となるなど、全国各地で犬島の石が珍重されています。明治時代後期には犬島製錬所が創業され、最盛期には人口約5000人にもおよんだといわれています。しかしながら、銅の価格の大暴落による製錬所の閉鎖と採石業の衰退により、今では人口約40人にまで減少しました。

現在は海水浴場や「岡山市立犬島自然の家」などがあり、島独自の自然に四季を通して親しむことができます。

1

Inujima Seirenscho Art Museum

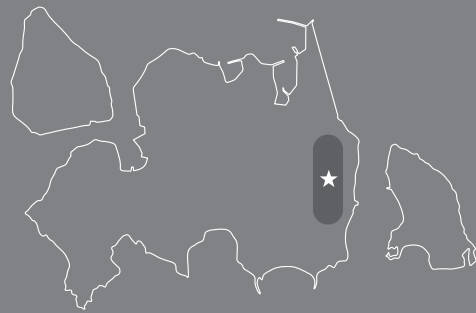
犬島精錬所美術館

アート

柳 幸典

建築

三分一博志



犬島精錬所美術館（旧称 犬島アートプロジェクト「精錬所」）は、「在るものを活かし、無いものを創る」という考えのもと、循環型社会をテーマに、犬島の近代化産業遺産である製錬所の遺構を保存・再生した美術館です。

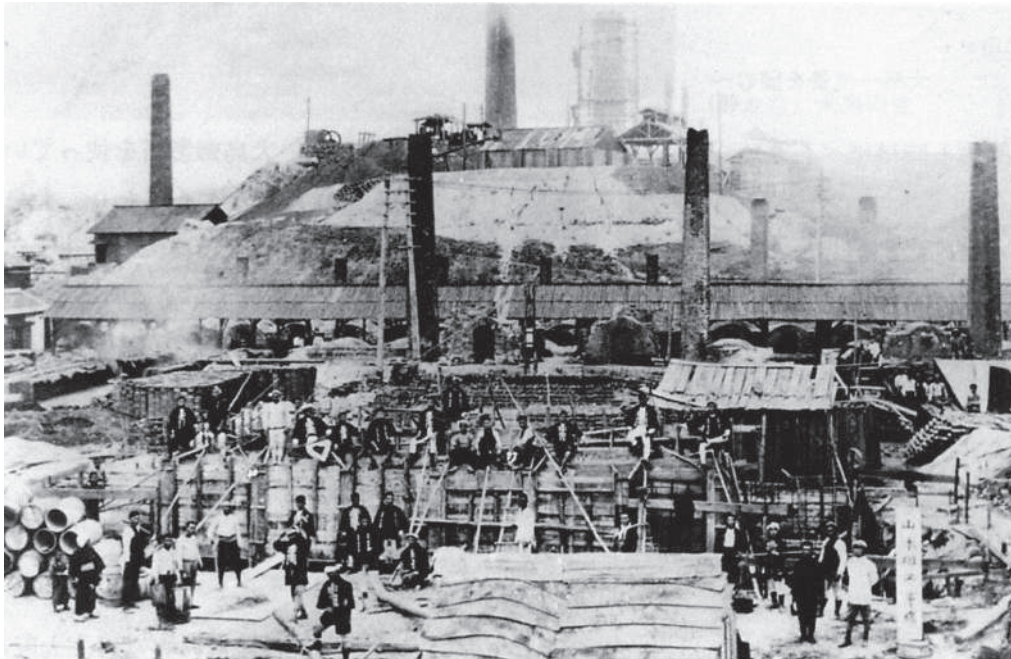
自然エネルギーを利用した環境に負荷を与えない三分一博志の建築とのコラボレーションを前提とした柳幸典のアートワークが設置されているほか、植物の力を借りた水質浄化システム(B.G.F.)を導入し、「遺産・建築・現代アート・環境」による新たな地域創造のモデルとして循環型社会を意識したプロジェクトです。

開館日 2008年4月27日

*「犬島アートプロジェクト『精錬所』」は2013年3月20日より「犬島精錬所美術館」に名称を変更しました。

History

歴史



写真提供：在本桂子

銅は江戸期より主要な輸出品として日本経済を支える存在でしたが、銅の製錬時に発生する煙害対策や原料輸送の利便性の観点から、瀬戸内海の島々に製錬所が建設されました。1909年に地元資本によって建設された犬島製錬所もそのひとつであり、後に藤田組、住友へ経営者を変えつつ銅の製錬を行いました。銅価格の大暴落により約10年で操業を終えました。

犬島では銅の製錬業と採石業により一時的に人口が急増し、港の周辺には会社の社宅や飲食店、娯楽施設等が建ち並び、銅生産の好調ぶりが反映されました。現在の犬島には、銅の製錬過程で発生する鉱滓からなるカミ煉瓦造りの工場跡や、大煙突など独自の産業景観を形成し、90年近くを経てもなお、かつての大規模な製錬事業を同わせる遺構が良好な形で残されています。また、犬島製錬所跡地は日本の産業発展の過程において革新的な役割を果たした遺産として、平成19年度経済産業省による「近代化産業遺産群33」のうちの「story30」に認定されています。

Art Works

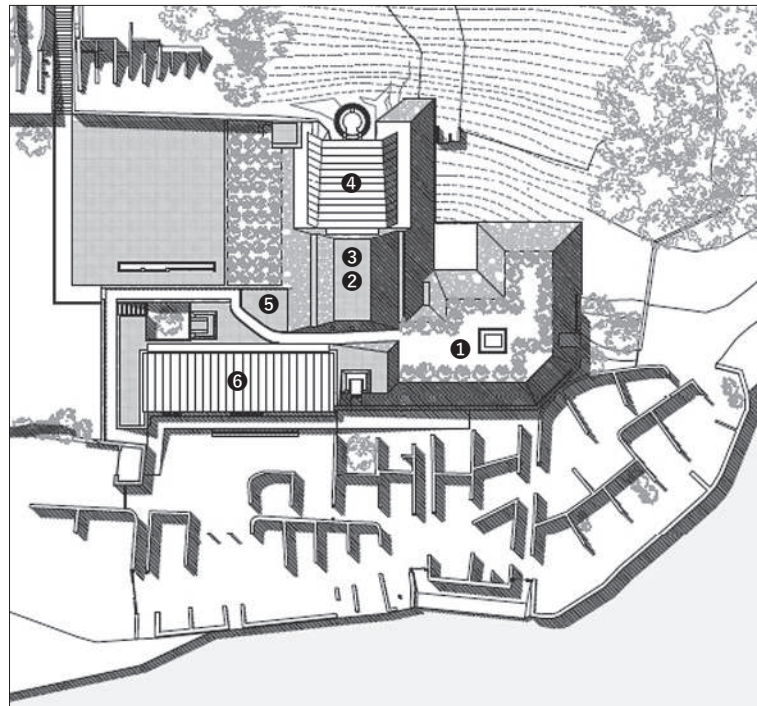
作品介绍 アーティスト：柳 幸典

柳幸典は、国旗、紙幣、軍艦、スーパー・ヒーローなど、ある体制や社会で消費されてきた象徴的な記号を抽出し作品化することで、既存の枠組みや境界を曖昧にし、観る者の足もとを揺さぶり続けてきました。犬島精錬所美術館では、建築との協働による6つのスペースをひとつの作品として展開しています。作品の素材として犬島から産出される石、銅製錬の過程で派生するスラグなど地場的な素材に加えて、戦後日本を代表する作家である三島由紀夫*の部材が使用されています。導入から結尾までの一つの空間体験を通し、観る者が思考の枠組みを転換するようなプロセスをデザインしている点は、柳の新たな局面であるといえるでしょう。

日本の近代化に貢献し、かつて隆盛を誇ったが、現在はその事跡を残すのみとなった犬島製錬所跡。そこに日本の近代化の矛盾を象徴する三島由紀夫というモチーフなどを配置した作品は、今後の日本のあり方について、ひとつのイデオロギーを提示するのではなく、観る者一人ひとりが思いめぐらす場所を提供しています。

*三島由紀夫氏が1937年から1950年まで暮らしていた東京都渋谷区松涛の家。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ① 「ヒーロー乾電池／イカロス・セル」 | ④ 「ヒーロー乾電池／イカロス・タワー」 |
| ② 「ヒーロー乾電池／ソーラー・ロック」 | ⑤ 「ヒーロー乾電池／ミラー・ノート」 |
| ③ 「ヒーロー乾電池／スラグ・ノート」 | ⑥ 「ヒーロー乾電池／ソーラー・ノート」 |



図版提供：三分一博志建築設計事務所

Architecture

建築について 建築家：三分一博志

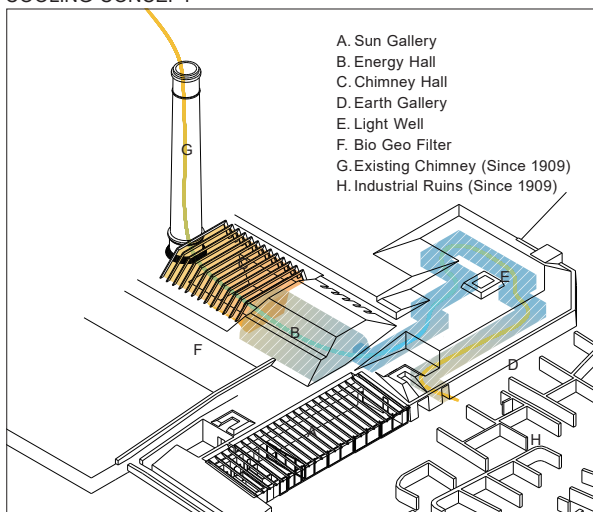
犬島精錬所美術館の建築は、絶え間ない自然のサイクルの一部、地球のディテールの一部としての建築で、環境との共生を具現化したものです。

自然エネルギーである太陽、地熱、気候と、銅製錬所の副産物であったカラミ煉瓦や、犬島石（花崗岩）、鉄などの犬島に由来する素材、そして島の地形や既存の近代化産業遺産（煙突）を利用し、夏は空気を冷却、冬は暖めるという構造で館内の温度を一定に保ち、周囲の環境にできるだけ負荷を与えない施設となっています。

この建物は、美術館内外に設置した環境計測機器によって温度、湿度、日射量などのデータを記録、調整しながら完成します。いわば、犬島という環境で自然の一部として変化、成長していく建築であるといえます。

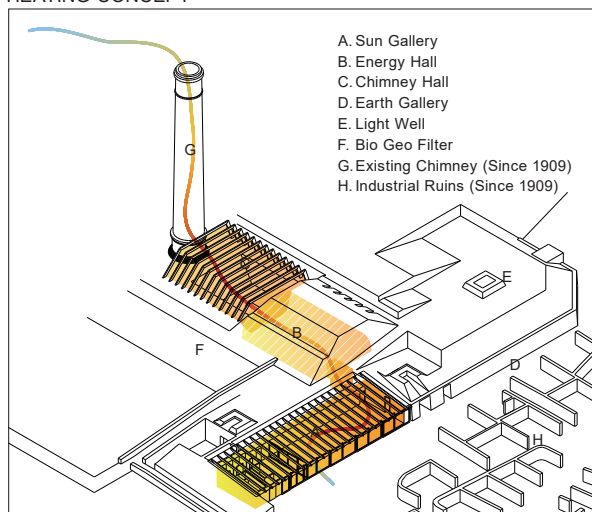
構造・規模：鉄骨造、一部木造、地上1階
敷地面積：52012.14m²
建築面積：1997.05m²
延床面積：789.59m²

COOLING CONCEPT



地中熱を利用したクーリング

HEATING CONCEPT



太陽光による蓄熱を利用したヒーティング

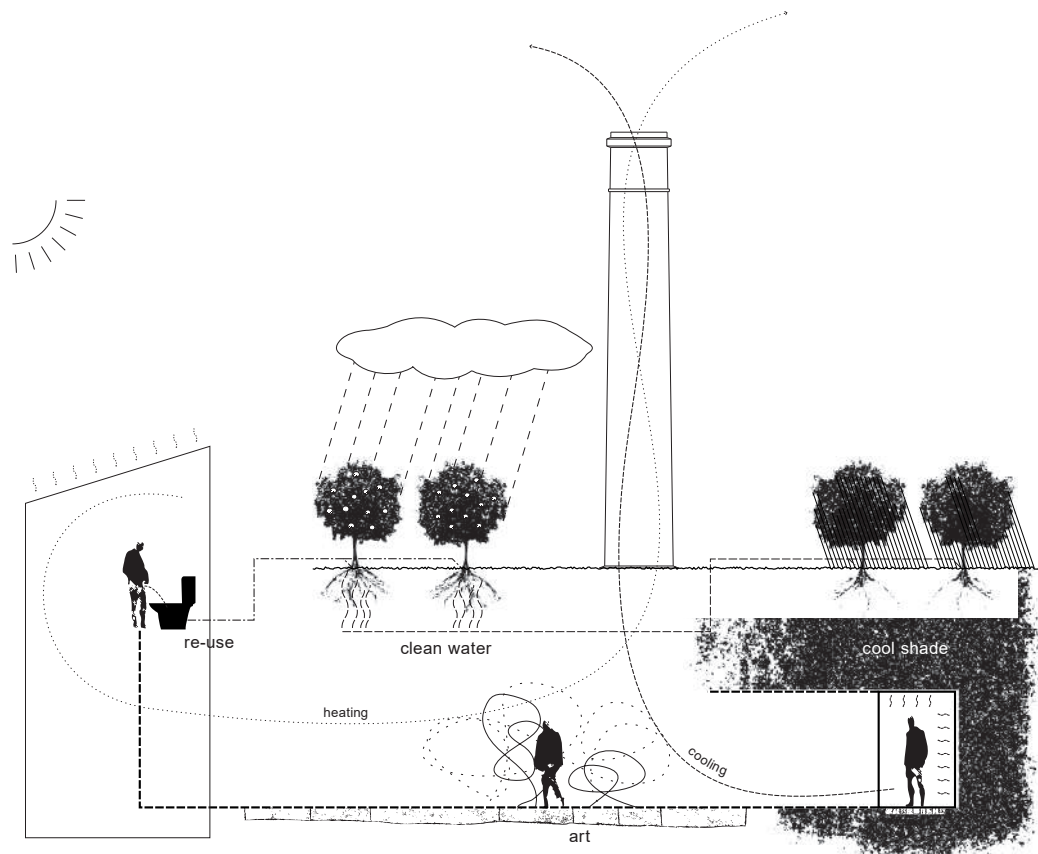
The Life of the cycle

循環の営み

循環型社会をテーマとした「精錬所」では、自然に配慮した環境づくりを行っています。従来のように汚水を直接海に流すのではなく、植物の力を借りた高度な水質浄化システム〈Bio Geo Filter (B.G.F.)*〉を利用することによって、来館者は太陽、人、建築、空気、アート、植物も地球の循環の営みの一部であることを体感することができます。また植栽としては、土質調査のうえ、犬島の環境に合わせ、耐塩性の高い植物や、悪条件な生育環境でも育つ植物を植え、時間をかけて環境をつくりあげています。「精錬所」では、循環型社会のモデルを目指す施設そのものが、自然の営みの中に組み込まれるように考えています。

* Bio Geo Filter (B.G.F.) は、バイオ=生物、ジオ=土壌、フィルター=篩(ふるい)の意味で、植物の力を借りた高度な水質浄化システムです。ろ過機能のある植物と鉱物の組み合わせを排水路にセットし、植物の養分吸収機能、ろ材の吸着、ろ過機能および付着した微生物の浄化機能を有効に利用するものです。

設計：三分一博志建築設計事務所
排水処理：秋田県立大学生物資源科学部
植栽協力：岡山大学環境理工学部



Cafe

カフェ

Seirensho Cafe | 精錬所カフェ

犬島精錬所美術館の館内にあるカフェ。犬島島民の方が考案したオリジナルドリンクやスイーツなどを提供しています。屋上の「みかんの森」では、キンカンや夏ミカンなど6種類の柑橘類をB.G.F.*によって栽培し、食材として使用しています。

* B.G.F.=植物の力を借りた高度な水質浄化システム「バイオ・ジオ・フィルター (Bio Geo Filter)」の略称。詳しくは前頁をご参照ください。

[利用案内]

営業時間 施設に準じます。

定休日 施設に準じます。

* 鑑賞チケットをお持ちでない方はご利用いただけません。

2

Inujima “Art House Project”

犬島「家プロジェクト」

アーティスティックディレクター

長谷川祐子

建築家

妹島和世



犬島「家プロジェクト」は、アーティスティックディレクター・長谷川祐子、建築家・妹島和世による犬島の集落で展開するプロジェクトです。

2010年、企画展示を目的とした3つのギャラリー「F邸」「S邸」「I邸」と「中の谷東屋」を開設し、2013年、新たに2つのギャラリー「A邸」「C邸」を増設しました。集落に点在するこれらのギャラリーは、鑑賞する人と作品、島の風景が一体となるよう、かつて建っていた民家の瓦屋根や古材、透明アクリル、周囲の風景を映し出すアルミなど多様な素材でつくられ、新たな展示空間を創出しています。

現在、ギャラリーと集落内に、6人の作家作品を展示しています。

開設日

2010年7月19日（「F邸」「S邸」「I邸」「中の谷東屋」）…★

2013年3月20日（「A邸」「C邸」「石職人の家跡」）…☆

Architecture

建築について

F 邸

元あった古い家屋の梁や柱などをできるだけ再利用しリノベーションした木造のギャラリー。石の神様を祀る神社や草むらなどの周辺の風景と一体になったギャラリーです。

構造：木造、一部鉄骨造

C 邸

かつてこの場所にあった築200年以上の建物に使用されていた松材をできる限り多く使い、広い空間を持つギャラリーとして再生しています。

構造：木造

S 邸

透明アクリルの壁が連なるギャラリー。アクリルからは民家や畑が透過し、風景に溶け込むかのような空間をつくり出します。

石壁部の植栽協力：明るい部屋
構造：アクリル造

I 邸

F邸と同様、古い家屋の木材や瓦を再利用した木造のギャラリー。庭には色とりどりの花畑が広がり四季折々の表情をみせます。花の植え替えには犬島島民が庭で育てた植物を利用しています。

植栽協力：明るい部屋
構造：木造

A 邸

「S邸」同様、透明アクリルを用いたリング状のギャラリーです。中庭に立つと、展示空間と周辺の風景の連続性を体験できます。

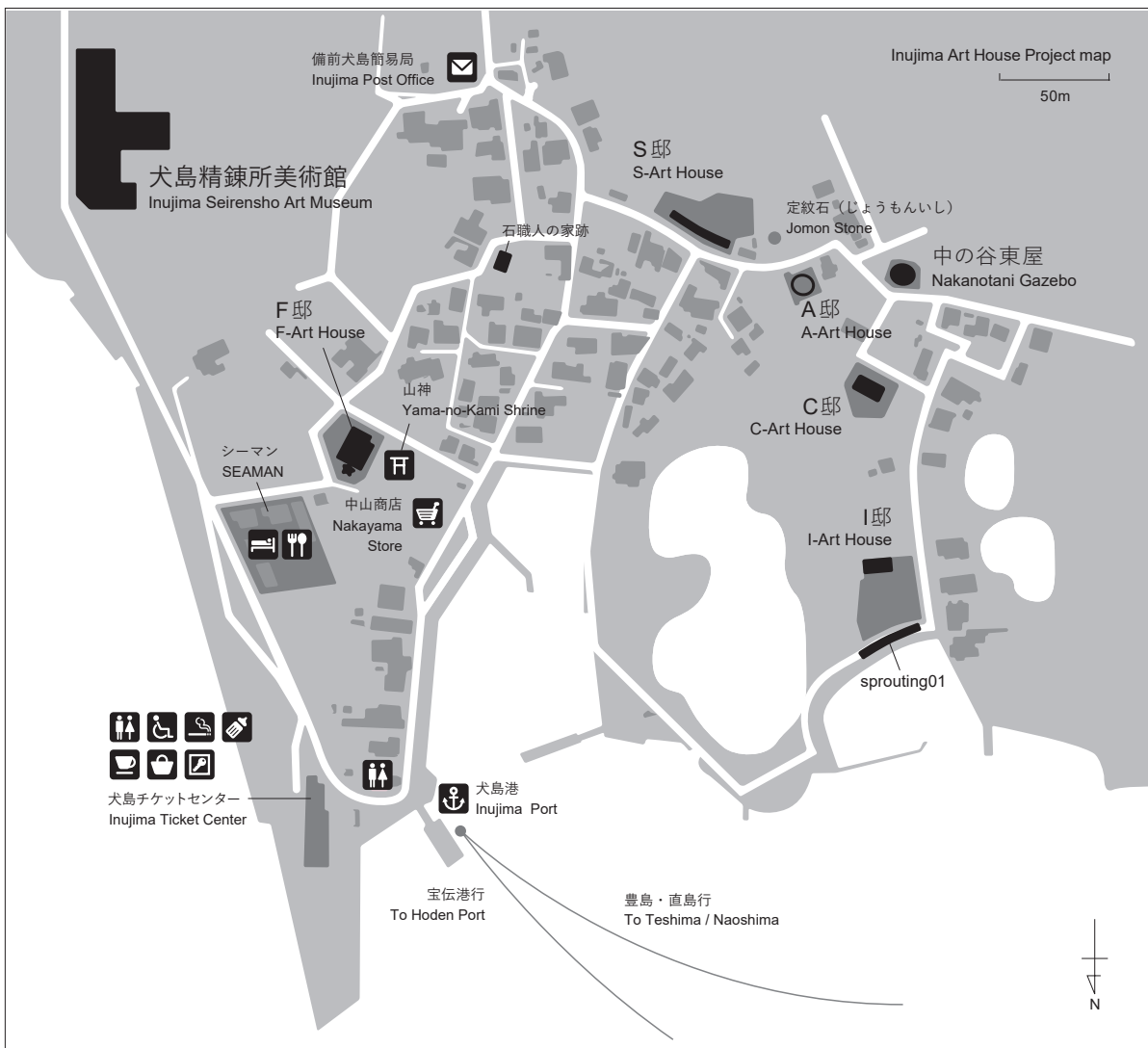
構造：アクリル造

中の谷東屋

集落の端に休憩所として新築された東屋。軽やかなアルミの屋根の傾斜が周辺の景色に馴染み溶け合い、屋根に開けられた小さな孔から差し込む自然光により表情を変えます。

構造：鉄骨造

設計：妹島和世建築設計事務所



Art Works

作品介绍

現在展示されている作品

F 邸

名和晃平「Biota (Fauna/Flora)」(2013)

名和は、動物や植物を想起させる様々な形のオブジェや多様な物質の表面からなる彫刻など、複数の作品を「F 邸」とその坪庭を含む建物全体の空間にダイナミックに展示します。犬島という場を背景に、新しい生のかたちを表現しています。2016年には、時の流れに合わせ、坪庭の作品が「成長」。緩やかに変化していく作品です。(2013.3.20～)

S 邸

荒神明香「コンタクトレンズ」(2013)

透明アクリルの壁が連なる「S 邸」に設置された本作品は、大きさや焦点が異なる無数の円形レンズを通して周りの景色の形や大きさが歪んで映し出され、見る人に目に見える世界の多様性を促しています。(2013.3.20～)

A 邸

ベアトリス・ミリャーゼス「イエロー フラワー ドリーム」(2018)

「周囲のコミュニティや自然が融合された彫刻である」という「A 邸」の建築に対する印象を基点に、犬島の自然のなかに見られる幾何形体や人々の暮らしの生命感をエネルギーあふれる色彩で表現しています。(2018.11.1～)

C 邸

半田真規「無題 (C 邸の花)」(2019)

神聖な場に奉納された切り花のように、静かなエネルギーを内包している木彫。犬島に生きる人々から発せられるエネルギーにインスピレーションを得た本作品は、島の「生」とともに呼吸し続けています。(2019.7.19～)

I 邸

オラファー・エリアソン「Self-loop」(2015)

「I 邸」の空間に、向かい合う3つの鏡を配置した本作品は、2方向に開かれた窓からの風景を結びつけています。作品中央のある一点において、鑑賞者は無限のトンネルのただ中にいる自分を見つめます。タイムトンネルのような同心円の中に立つ鑑賞者は、無限の空間とつながるスポットにより、新しい感覚の旅に誘われます。(2016.9.18～)

石職人の家跡

浅井裕介

「太古の声を聴くように、昨日の声を聴く」(2013-2016)

土や身の回りの素材を用いて奔放に制作を行ってきた浅井が、素材や場所そのものに蓄積された記憶に反応するように、舞台となる犬島集落内の空き地や島内で探し集めた形を取り入れつつ、動植物といった生命力あふれるモチーフを現地制作しました。(2013.3.20～)

「I 邸」前の中の谷の入江の小路には「sprouting 01」を展開。(2016.7.18～)

展示作品履歴

[2010年7月19日～2012年11月30日]

F 邸

柳幸典

「山の神と電飾ヒノマルと両翼の鏡の坪庭」(2010年)

S 邸

柳幸典

「蜘蛛の網の庭」(2010年)

I 邸

柳幸典

「眼のある花畑」(2010年)

[2013年3月20日～2015年2月17日]

C 邸

ジュン・グエン=ハツシバ

「The Master and Slave: Inujima Monogatari」(2013年)

[2013年3月20日～2014年3月9日]

I 邸

前田征紀

「Universal Reception」(2013年)

「Universal Wavelength*」(2013年)

「Prayer」(2011年)

* Jue and Anoa (Yukinori Maeda / Mayumi Tanaka)

[2014年3月21日～2016年9月11日]

I 邸

小牟田悠介

「ブレンミラー」(2014年)

「リバース」(2014年)

[2013年3月20日～2018年8月12日]

A 邸

荒神明香

「リフレクトゥ」(2013年)

[2015年3月21日～2019年6月17日]

C 邸

下平千夏

「エーテル」(2015年)

3

Inujima Life Garden

犬島 暮らしの植物園

アーティスト

妹島和世 + 明るい部屋



長く使われていなかったガラスハウスを中心とした約4,500㎡の土地を再生し、犬島の風土や文化に根ざした植物園として展開。完成された場としての見学型の植物園ではなく、島の方々や来訪者とともに土地を開墾していきながら、自然のサイクルに身を置き、食べ物からエネルギーに至るまで、自給自足しながら自然とともにくらす喜びを体験できる場づくりをしています。

自然の巡りや植物の力を暮らしに活かす術を島の方々に教えていただきながら、ワークショップ等を通じて「食」や「香り」「学び」「遊び」など、「植物にできること」のすべてが体感できるような機会と空間を提供しています。島の方々と来訪者が憩い、学び合う場でもある「犬島 暮らしの植物園」において、訪れる方とともに「これからの暮らし方」を考えていきます。

開設日

2016年10月8日

施設概要

主催人・運営：公益財団法人 福武財団

企画：妹島和世+明るい部屋

建築：妹島和世建築設計事務所

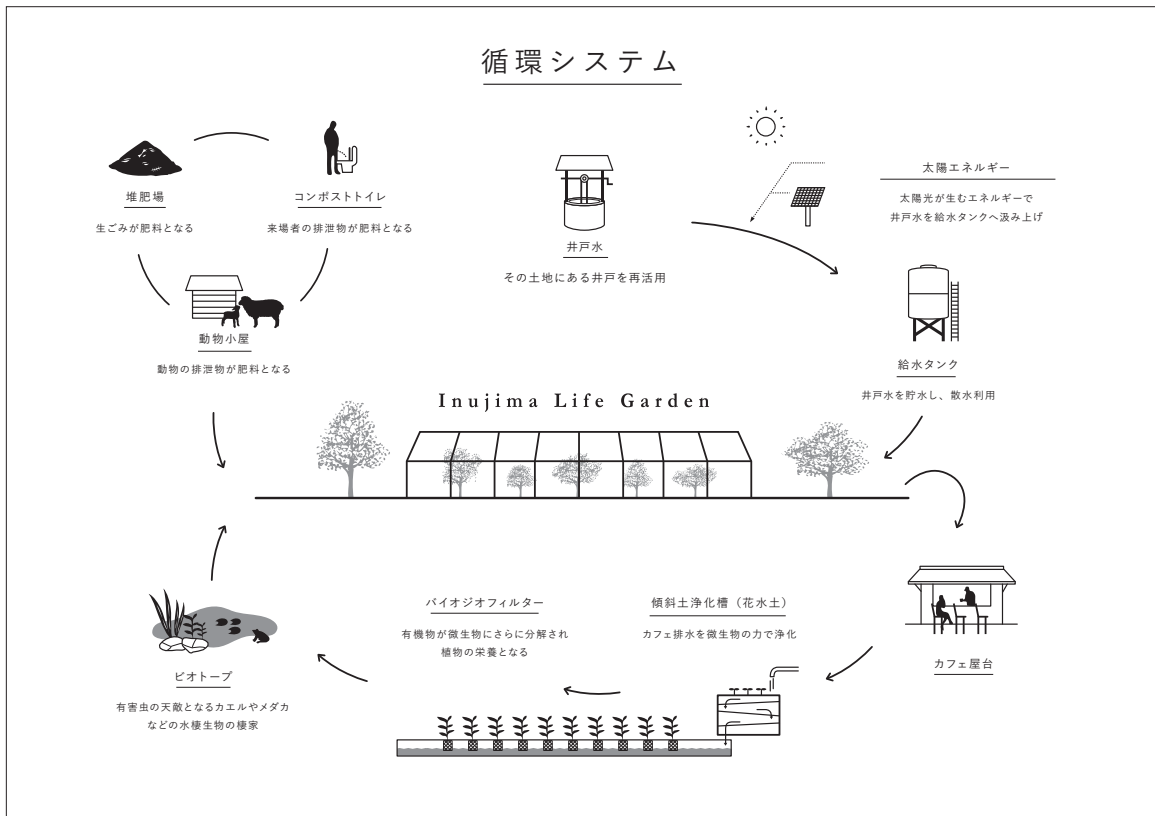
植栽：明るい部屋

敷地面積：約4,500㎡

敷地計画



- ① 野原の広場
- ② ガラスハウス、テラス
- ③ カフェ屋台
- ④ バイオジオフィルター、ピオトープ
- ⑤ 井戸、給水タンク
- ⑥ 屋外キッチン
- ⑦ 堆肥場、動物小屋、コンポストトイレ
- ⑧ ハーブガーデン
- ⑨ 農園
- ⑩ 果樹園



4

INUJIMA Art Rendezvous

INUJIMA アートランデブー

アーティスト
大宮エリー



「INUJIMA アートランデブー」は犬島において、人びとの交流のきっかけとなるような作品やイベントを展開するプロジェクトです。

アーティスト 大宮エリーの作品が少しずつ島内に点在していきます。作品を目印にランデブー=待ち合わせをし、ときに休憩しながら、島を散策できます。子どもからお年寄りまで、さまざまな人がともに時間を享受できる、公園のような環境が犬島に広がっていくことを願っています。

開設日

2022年4月14日《フラワーフェアリーダンサーズ》…★

2022年9月29日《光と内省のフラワーベンチ》…☆

Art Works

作品介绍 アーティスト：大宮エリー

《フラワーフェアリーダンサーズ》

犬島散策のはじまりを彩る立体作品。盆踊りが行われる“ちびっこ広場”に、犬島の草花が踊ります。眺めるだけでなく、自由に触れられる作品です。

《光と内省のフラワーベンチ》

犬島の南側に歩いていくと、美しい瀬戸内の海景に出会えます。自然を眺めながら佇み、考えを巡らせるためのベンチです。空も草花もめぐりめぐる。光が差し込むと、花のシルエットがそっと地面を彩ります。

Inujima Ticket Center

犬島チケットセンター

犬島チケットセンターは、建築家・三分一博志氏が、かつての民宿をリノベーションしたもので、美術施設の鑑賞チケットを販売するほか、ミュージアムショップとカフェを併設しています。カフェの窓からは穏やかな瀬戸内海を望めます。
* 鑑賞チケットをお持ちでない方もご利用いただけます。

犬島チケットセンターストア

犬島の各美術施設の関連書籍やオリジナルグッズ、地元岡山と瀬戸内の特産品などを取りそろえています。

犬島チケットセンターカフェ

瀬戸内近郊の食材を使った「たこめし」や、「精錬所」屋上で取れた果物を使ったスイーツなど、犬島ならではのオリジナルメニューをお召し上がりいただけます。

※季節によって異なります

[利用案内]

営業時間 10:00～17:00 (ラストオーダー16:30)

休館日 施設に準じます

Facility Information

鑑賞のご案内

- ・犬島精錬所美術館
- ・犬島「家プロジェクト」
- ・犬島 暮らしの植物園

[利用案内]

開館時間 10:00～16:30 (入館は16:00まで)
休館日 火曜日から木曜日(3月1日～11月30日)
※ただし祝日の場合は開館。翌日休館。
全日(12月1日～2月末日)
月曜日が祝日の場合は、火曜日開館、翌水曜日休館。
鑑賞料 オンライン 2,100円 / 窓口 2,300円
(15歳以下無料)
※犬島精錬所美術館、犬島「家プロジェクト」共通
無料 犬島 暮らしの植物園

[所在地・お問い合わせ]

〒704-8153 岡山県岡山市東区犬島327-4
Tel: 086-947-1112 Fax: 086-947-1115 (犬島精錬所美術館)

- ・INUJIMA アートランデブー

[利用案内]

開館時間 犬島精錬所美術館に準じる
休館日 犬島精錬所美術館に準じる
鑑賞料 無料

[所在地・お問い合わせ]

〒704-8153 岡山県岡山市東区犬島
Tel: 086-947-1112 Fax: 086-947-1115 (犬島精錬所美術館)